高学年はじめての文化祭

四年三組　芝木　理恵子

「わたしがあらおうか？」

と、わたしはみんながフイルムケースに入れたスライムを、えっ子ちゃんと、ゆきちゃんと、わたしでどんどんあらっていきました。わたしもさいしょのうちは、スライムを入れていたけれど、大ぜいでやっているより、分たんした方がいいと思ったからです。そのうちに、みんなも、少しづつ、分たんし始じめたので、スムーズになってきました。だいたい、スライムを入れる人と、フイルムケースのふたをしめる人、それをあらう人になりました。でも、やっぱり、文化祭がちかくなると、少しみんなあわてざみになりました。

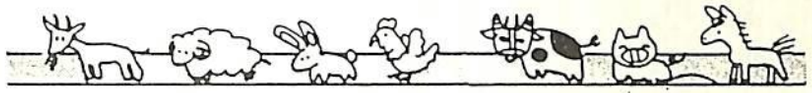
「フイルムケースのフタ、早くしめてね。」

などと、みんなでよびかけながら、がんばりました。さいごのほうでは、わたしたちはきう室からそうさんをもってきて、ふきました。でもそのあとがたいへんでした。もうかたずけに入ったときに、もうじんかおわってしまって、スライムであそんで、かたずけない人がいたので、みんなかたずけるときに、

「あそんだ人いっしょにかたずけてよ。」

と、おこってしまっていました。

そのあと、コーナをまわるのはたのしいけれど、かたずけをもっとしっかりやってほしかったです。



かんばった道おしえ

四年三組　宮地　将行

「もど、て。」

と、あさ子がいっしょにみんなスタートにもどろうとしてしまったので、いがいがないようにしていました。

「ジャンケンでまけたらもう一回ジャンケンして。」

と、ぼくは、言、こまけたら何回もジャンケンさせた。

ぼくは、どんどんくるのですごいたいへんだと思った。よかったことは、まいごになる子が少なくてよかったと、思った。

六月二十五日。下校後、森田君と亜樹君と大祐君が、迷路の下書きをしてくれた。

その後、おばけ係の子たちが、しかけや道具を持ってやってきた。もう役割分担と場所決めがしてあった。少し練習をして帰って行った。

六月二十六日の夕方、有貴さんから電話が入った。スライムを自分で作ろうとしているがどうしてもうまくいかないという。明日のことを心配しての電話であった。

六月二十七日。朝の会から迷路が作りたくて落ち着きがない。一時間目に、二枚重ねた新聞紙を三枚つなげて壁を作った。一人二個ずつ作るように指示した。ガムテ

かんばった文化祭

四年三組　上田　亜衣

「お客さんがきたよ。」

と、かなえさんがさけんだ。わたしはまだ、よういをしていなかったので、かなえさんに、

「ちょっとまってて。」

と、たのんだ。

「いいよ。」

と、言って、きれいにもどすんでくれた。わたしはいそいでもどすんでくれた。わたしたちはいろいろなお客さんのお客さんがゴーストコーナに入ってきた。わたしはは、はじめてコーナーをやるので、ものすごくきんちょうした。お客さんがきたとき、わたしは、れいのもを顔をかくしたらしてて、

「ようこそゴーストコーナへ。」

といってかぶせた。一度おとかすと、せんせいやせんちょうもいなくて、はずしてもらえないかどうかなどと、いっぱい、ていました。一度生のるが、まよっていたので、わたしは、

「どうしたの？」

と、聞いたら、

「迷わからないよ。」

と、なきそうなかおでいったので、ゴールまでつれていってあげました。

楽しかった文化祭

四年三組　中村　健

「ダダダダーー」

と、文化祭がはじまったとうじに、お客さんが20人くらい人がきました。ぼくは、

「たくさんくるなー」

と、思いました。ぼくはゲーム係です。はろゴーストめいろにへってはじめのジャンケンで負けた人いがいは、みんなゲームの所にきてしまいます。ぼくは、しゅげきをやっています。1・2年生の子が、しゅげきを持って、

「これ、て、どうやって、わゴムをかけるの？」

とぼくにききました。ぼくは、

「1・2年生なら、わかりとる。」

とは、たけど、わからない人もいるんだなーと、思いました。ぼくは、そのぎいたを子に、ここの、うしろからとる日のばっのやきのみそにかけて、うらんだよ。

とおしえてあげました。ぼくは、70・80を3つしかまわれなかったです。でも、3つしかまわれなかったけど、3つとも、おもしろかったです。らい年がとてもたのしみです。

ープでつなげるのだから二人組になるのが能率がいいのだけれど、「二人組でやるといいよ。」と助言しても面倒に思ったのかすぐにはグループになれなかった。しかし、作業が進むにつれて協力ができるようになった。陽子さんが、

「先生、瞳ちゃんと二人で五個も作れたよ。」

と、報告してくれた。

「すごいがんばったね。2（陽子さんの分）＋2（瞳さんの分）＝4じゃなくて、2＋2＝5になったね。」

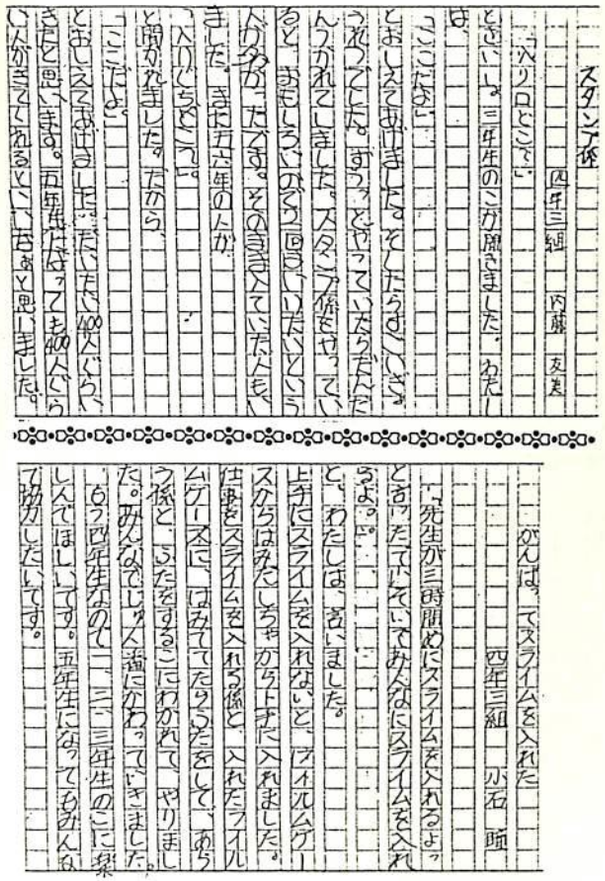
と変に感心してしまった。

三時間目になり、スライム係とゲーム係はそれぞれの準備にかかり、おばけ係と迷路係とジャンケンマンが必死になって迷路を組み立てた。なぜか三十枚くらい壁が足らない。残り時間後四十五分。

「本当にできるのか。迷路ができなかったらコーナーができない。」

その声に、奈菜さんや一晃君たちの動きが加速された。

十一時五十五分。なんとか43ゴーストめいろが完成できた。



三年二組の朝

三年二組　古池　初江

三年二組の朝は、毎日声を出すことから始まります。週替わりの詩の朗読と今月のクラスの歌が二組の「朝のおつとめ」です。

四月に上地に来て、三年二組の子どもたちと対面してから四カ月が過ぎましたが、この「朝のおつとめ」は、控えめで学校生活の中でなかなか声が出せなかった二組の子どもたちには、よい刺激になったようです。

一学期中に声出し訓練をみんなでがんばって、アイウエオとか口の体操をやっていました。のどがちょっといたくなるけれど、休ませるとなおります。だけど、声出しは好きです。毎日、口が少し大きくなるみたいです。（鋤柄　理奈）

声出し訓練をやって前よりも声が大きくなったし、知らない詩もいっぱいわかりました。（久田　ゆう子）

最初は、どの子も声を出すことの不安や恥ずかしさから三十五人いてもなかなか大きな声になりませんでしたが、詩の内容の楽しさや代表の声出し係を交替でやった喜びなどにより、徐々に大きな声が出せるようになりました。当初は一部の子どもだけの声しか聞こえなかったのも、毎日の繰り返しの練習でしだいに一人一人が自信をもって声を出すようになり、声を出す楽しさのわかる子どもが増えてきました。教室からは競うように大きな声が聞こえてきます。

声出し訓練メニュー

アエイウエオアオ
早口ことばのうた（藤田　圭雄）
はやくちうた（川崎　洋）
えんそく（小野　十三郎）
あきかんうた（谷川　俊太郎）
ぷぷんぷん！（荘司　武）
雨のうた（鶴見　正夫）
あめ（山田　今次）
シャボンとズボン（鶴見　正夫）

わたしは、声出し訓練のとき班の子に、
「いつもいつも大きな声で、ありさんあつまれとか言ってるね。」
と言われました。わたしは班の子が知っていたのでちょっと恥ずかしかったけど、それからも口をしっかりあけて、はっきりと声を出しました。　（小倉　麻衣子）

声出し訓練で一番苦労したのは、最初にやったアイウエオ体操です。なぜかというと、石原慎也君の方がぼくより声が大きかったので、ぼくも負けずに大きな声で言ったからです。
（草深　博紀）

毎日声を出す訓練を続けることで元気に表現することに慣れてくると、リズムのある詩には自然に力が入るようになりました。また、自分なりに声の出し方を工夫する子も出てきました。

ぼくが一番おもしろいと思った声出し訓練は「あきかんうた」です。なぜかというと、おもしろいのは三回くらいやるとおぼえるからです。「あきかんうた」は二回でおぼえたから好き好きなんだと思います。　（鈴木　敦志）

ぼくは、声出し訓練の「あきかんうた」が一番いい。どらむかんは大きいから、ちょっとだけど、どらむかんというところを大きい声を出した。「シャボンとズボン」をやるころには、ちょっと声が大きくなったみたいだ。（竹下　慎哉）

あきかんうた
谷川俊太郎

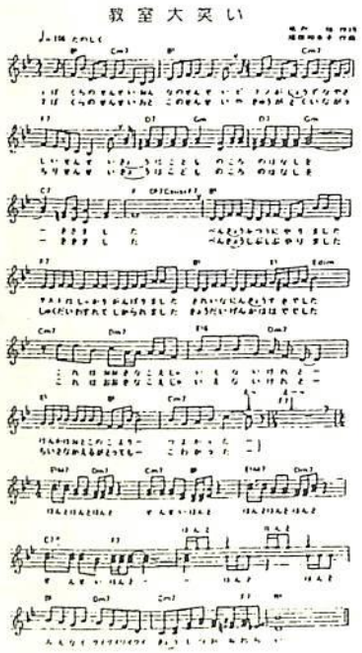
かんからかんの
すっからかん
こーらのあきかん　けっとばせ
おひさま　かんかん
とんちんかん

かんからかんの
すっからかん
かんかんならせ　どらむかん
じかん　くうかん
ちんぷんかん

今はまだ、詩の朗読という段階には程遠いのですが、元気な音読を目指し頑張っています。歌も、美しさや爽やかさを求める歌ではなく、子どもらしく力いっぱい歌える歌に取り組みました。歌を歌っているときの子どもたちの表情はとてもにこやかで、知らないあいだに前に出てきて踊りす子までいます。全身で歌の楽しさを感じ取っているのです。それに、何よりも子どもたちにとって自分たちのクラスの歌があるということが歌う励みになっているようです。

わたしは、四月で歌った「野原で手をたたけ」が一番強く心に残りました。特に残ったのは、手拍子の「・パパ・パパン」です。六月に歌った「地球はみんなの大合唱」も好きです。動物の鳴き声のところが一番好きです。（清水　友美）

四月　野原で手をたたけ　　五月　教室大笑い
六月　地球はみんなの大合唱　　七月　とんでったバナナ



わたしは「教室大笑い」を朝歌っていたら、三年二組みたいににぎやかな教室みたいで、先生も女の先生だし、歌を歌うとき男の子がにぎやかに歌うから、わたしのイメージと同じことがあるなんてすてきだと思いました。いい歌をおぼえてよかったです。　（米留　千加）

わたしは声出し訓練をやってよかった。なぜかというと、口がじょうぶになるからいいと思った。それと、心がにぎやかになるから。

いつか三組の子が、

「二組は、朝、声出し訓練とか歌とかやってるからにぎやかだね。いいね。」

と言った。

朝、口を動かすのはいいな。　（志賀　瞳）

（原田　理美）

運動会の一日

二年担任　前原　照世

一学期、二年二組は、学校探険や魚採り、水族館作りを中心に頑張ってきました。特に水族館作りでは、教室中を暗くしてライトアップをしたり、にぎやかにするために折り紙でたくさん魚を折ったり、入場券や招待状、看板を作ったり、一人ひとりが自分の仕事に真剣に取り組んでいました。来てくれた先生や子供たちにほめられて、自信もつきました。みんなで一つのことに打ち込んで頑張れた、と初めて思えたことでした。しかし、一学期いっぱいで杉瑞穂さんが転校してしまうという残念なニュースもありました。二学期からは、ちょっとさみしい教室になるなと思っていたところへ、新しく恒川佳子さんが二年二組に加わることになり、また新たに三十九名でスタートを切ることになりました。

二学期が始まると、すぐに運動会がありました。二年生の種目は、徒競走と全男の帽子とり、全女の棒引きです。例年よりも種目も練習時間も少なかったのですが、今年一度の運動会を子供たちは楽しみにし、練習も頑張っていました。

きょうぼくは、うんどう会のれんしゅうで、かけっこをしました。にゅうじょうもんから出たら、ぼくはめちゃくちゃどきどきしました。スタートするところについたら、どきどきするのが止まりました。ぼくの番になってスタートしたら、出足がおそくなりました。でもみんなをぬかして一いになりました。まけるとおもったのにかてたから、とてもうれしかったです。このちょうしで、うんどう会もぜったいかちたいです。

（大山しょうや）

ぼうひきの時、きのうより白はちょうしがでてきました。先生が「二年生ようい。」と言った時、「まけない。どうてんでもいいからぜったいやる。」とおもってやったら、どうてんになったのでうれしかったです。でも、さいごのけっかのはっぴょうで、赤が二十六本で、白が二十五本だったので、まけちゃいました。さいごの一本さでした。ぼうひきがおわったらおねえちゃんにあって、そしたらおねえちゃんが、「あらまあ、まりこは白だったわねえ。まけちゃったねえ。かわいそうにねえ。」と言いました。わたしはすごくおねえちゃんが大きらいでした。わたしは「まけてわるかったわねえ。」と言いました。ほんとにまけたのでくやしかったです。

（青いまり子）

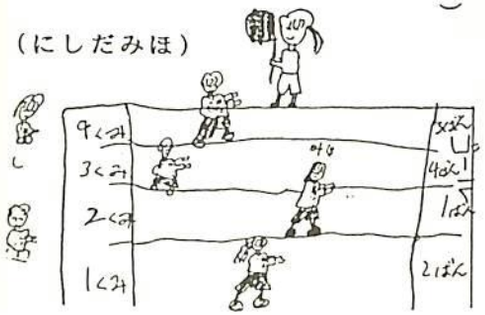
夏休みが開けてすぐの練習で、まだ暑さが残っていたせいもあってか、体調を崩してしまう子もいました。

ねつをだしたからあせった。でも、ねつがさがってでれました。（さかいゆう）

九月十一日、いよいよ運動会です。体調を崩して出れない子はいないかな、と心配していましたが、七時の花　火の合図を確認して、三十九名全員が元気に登校してきました。来てすぐに、裸足になって走り回っている子がいます。いつもに増して、元気いっぱいです。教室に入ると、楽しみと緊張感とが入り交じって、複雑な表情をしている子もいます。それぞれがいろんな思いを抱きながら、運動会が始まりました。

きのうは「うんどう会たのしみだな。」とおもいましたが、今日はふあんが

（にしだみほ）



いっぱいです。ぼうしのひもがきれてるから、「走ったらとんでかないかな。」とおもったり、「おかあさんたちがこなかったらどうしよう。」とか、いろいろふあんがありました。

（おし川さち子）

よるに、かけっこで一いになってるゆめをみたよ。

（よねざわひろ子）

開会式が始まったころから、暗雲が立ちこめてきました。運動会で一番困ってしまう雨が落ちてきました。いったん教室に待機します。

「先生、今日はもう運動会できないの。」

「また一週間練習するの、やだなあ。せっかく今日来たのになあ。」

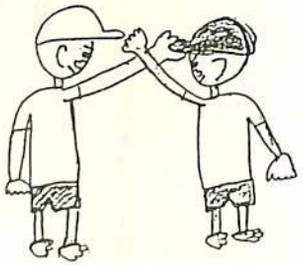
しかし雨はあがり、運動会は再開されました。放送が入ると、子供たちは一斉に歓声を上げて、運動場に飛び出していきました。

二年生の最初の種目は徒競走です。音楽に合わせて、かけ足で入場します。

ぼくは、ときょうそうをやるとき、どきどきしました。とうとうぼくの番になって、はじめは一番だったけど、三番になってしまいました。かえってまた、ときょうそうをやりました。

（森しゅんすけ）

ときょうそうは四人ずつやりました。ぼくはどべちーでした。みんな早かった。手をけがしてつまんなかった。雨がふって、こんどの日よう日のほうが、手がなおるとおもった。でも、ときょうそうができてよかった。おもしろかっ



（水のたかまさ）

たよ。

（山本しょうじ）

みんながんばって走りましたが、優勝はできませんでした。一位は四組、二位は三組でした。

四組さんにトロフィーをまわしちゃって、ちょっとさみしかったよ。

（まついかほり）

次は、全男の帽子とり・騎馬戦です。二年二組は白でした。

先生が「一年生よういー。」と言ったので、すぐ「白がんばれ。」と言いました。「二年生よういー。」と言ったので、まわりながらはしりました。赤の一、二年生二人ずつとって、三年生を一人とりました。ぼくたちのたいしょうがとられて、「バン。」となりました。「一かいせん、赤。」と言ったので、くやしかったです。のこったいみがないとおもいました。「二かいせん、きばせん。」と言いました。「白がんばれ。」と言いました。てきのたいしょうがとられたので、どうてんでよかったとおもいました。

（すずきともや）

ぼくは、ぼうしとりのさいしょのこうしんの時、どきどきしました。こうしんがおわったあとエールのこうかんをする時、ぼくは「なんにんとれるかな。」とかんがえていました。大きい子の番は、たいしょうがかちました。それで、ばんざいもできました。

（さいとうまこと）

まさきは、てきのぼうしをとった

（あじおかまさき）

昼食をはさんで、今度は女子の棒引きです。練習では負けてばかりだったので、何とか一矢報いたいところです。

わたしはぼうひきにでるまえに、「ぜったいかつぞ。」と思っていました。

（よねざわひろ子）

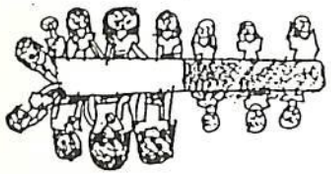
ぼうひきのときわたしは、「こんどこそかちたい。」とおねがいをしました。

（森田ちひろ）

力いっぱい、ぼうのとりあいをしました。いつのまにか白のせんのまえまでぼうがきていて、みんなが赤にひきずられそうになっているとこに行ったので、力いっぱいひっぱりました。やっと四本とれたところで、ふえが「ピー。」となりました。まけてすごくくやしかったです。つぎの三年生がやるのに、力いっぱいおうえんしました。

（中ざとあかね）

負けてしまって残念でした。でもみんなが頑張って参加し、応援していた姿は、とても立派でした。



（中ざとあかね）

運動会後、男子はエールの交換がお気に入りで、ドッジボールの時に行っていました。ジャンケン集会の時にも、「エイエイオー。」とかけ声を出している子もいました。そのおかげで（？）運動会の屈辱を晴らし、優勝することができました。今度はマラソン大会で頑張って、トロフィーを取り戻せたらと密かに思っています。

国体記念

一年生の運動会

二学期になり、たくましくなってきた子供たちを見る度、この子たちのもっている力を思う存分発揮させたいと考えてきました。一年生の担任五人が、「遠足がいい」「おでんが食べたい」「運動会は？」と知恵を絞った結果、わかしゃち国体にちなんで、一年生だけで行う運動会にしようと決定しました。これまで、学年による集会は一回も行われず、今回の運動会は、各クラスで力を合わせて取り組む絶好の機会になると考えました。

種目の決定こそ担任が関わりましたが、会の進行や器具の準備、賞状作りなど、子供たちが主役となって取り組みました。

プログラムに従って、各クラスで学級会を開きました。どのクラスも、あめくいとか、でかバンという食べ物に関係のありそうな種目に人気が殺到し、やんやの大騒ぎとジャンケン合戦の末に、各自の参加種目が決まりました。ポンポンを持ってにぎやかに踊ったり応援したりするポンポンボーイズとポンポンガールズは、踊りが好きな子、上手な子が選ばれました。賞状を作る係、玉入れのかごを支える係、玉を準備する係、あめくいのあめを並べる係、棒引きの棒を並べる係、コーンを並べる係なども話し合って決めました。具体的な目的があると、話し合いも学級の雰囲気も盛り上がってきました。日記にも、「運動会があるので、三輪車の練習を友達としました。」とかかれてくるようになりました。

十月三十一日、午前九時、抜けるような青空のもと、開会式がとり行われました。初めの言葉に始まり、選手宣誓では、一年生を代表して、河田翔太朗君と、山本美登さんが緊張しながらも元気いっぱいな声を聞かせてくれました。

百名を越えるおうちの方々の応援をいただき、秋の大運動会を思わせるほど盛大な会となりました。

子供たちの興奮した声をお聞き下さい。

わくわく

H. 6.10.22（土）
上地小1年　学年通信

国体記念——年生の運動会のお知らせ

★10月31日（月）9時～

プログラム

1 - 開会式
　・始めの言葉　・選手宣誓　・終わりの言葉
2 - 宇宙人のテレパシー
3 - くるまでゴー　・各組12名
4 - 玉入れ　・全員
5 - あめくい競走　・各組12名
6 - 帽子とり　・女子全員
7 - デカバン競走　・各組12名
8 - ぼうひき　・男子全員
9 - 閉会式
　・始めの言葉　・表彰　・校長先生のお話
　・終わりの言葉

先日にもご案内しましたように、10月31日は月曜日ですが国体のため、半日授業になります。（給食はありません）一年生はこの日にお楽しみ運動会を計画しています。ぜひ、応援をお願いします。

一年担任

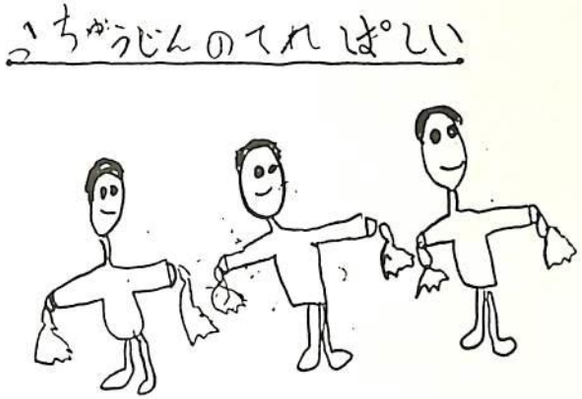
1、宇宙人のテレパシー

初めて「宇宙人のテレパシー」の曲を聴いた時、子供たちはすぐに覚え、リズムに乗って踊り出しました。放課にも、自分たちで口ずさみ、踊りの練習をする姿が、どの教室でも見られました。当日も曲がかかると、子供たちは、自然に体が動き出し、ポンポンボーイズ、ガールズも日頃の練習の成果を見せようと、はりきって踊っていました。

わたしはきょう、がっこうで一ねんせいのうんどうかいをやりました。わたしは、うちゅうじんのテレパシーが一ばんおもしろかったです。みんなでちからをあわせてがんばってれんしゅうをした、うちゅうじんのテレパシー。はじめは、ちょっとはずかしかったけど、そのうちにじょうになったよ。

（つじむらかおり）

・おうちのかたから
とても楽しそうに自信を持ってやっているのが印象的でした。「宇宙人のテレパシー」の踊りが大好きで家でもよく踊っていました。



（おおたみつのり）

2、車でゴー

きょう一ねんせいだけのうんどうかいで、一ばんさいしょにやったくるまでゴーで、わたしがいちばんさいごのアンカーでした。アンカーのでばんがきて、さんりんしゃにのって、コーンのところへいってからあしをすべらして、一くみにおいつかれたかとおもったら、一くみがコーンを二かいてんしたから、そのうちにゴールへきました。ぎりぎりセーフでした。

（たなか　みまき）

きょう、一ねんせいだけのうんどうかいをしました。そしてぼくは、くるまでゴーにきめました。ぼくは、さんりんしゃにのって、はやかったです。でも、ぼくは、ほりごめくんより大きいから、ゆうりじゃないとおもいました。やのくんは、「はやかった。」っていってくれました。

（みやぎ　たかひろ）

（こさかまなみ）

3、玉入れ

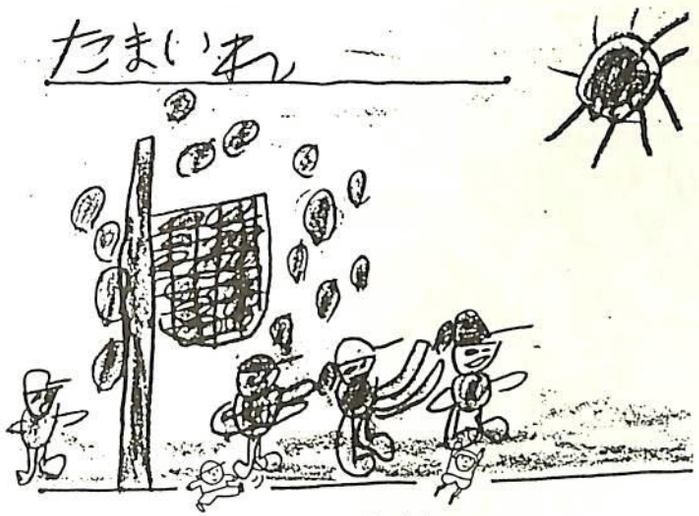
秋の運動会では、できなかった「玉入れ」に、子供たちはやる気満々でした。「よーいどん」の合図で一斉に玉に飛びつきました。玉を運んだり、重いかごを持ったり、玉を数えたり、すべて子供たちの手でやりました。

きょうのうんどうかいでたのしかったことは、たまいれです。でも、わたしは、せが小さいので、ぜんぜんかごにたまがはいりません。

（いとうもえ）

たまいれで、かごもちをやった。なげてもはいらなくて、ぼくのかおにあたった。あんまりはいらなかった。おわっても、たまをかごのなかにいれるこが、たくさんいました。二かいせんでも、また、たまをいれるこがいました。六十六こはいりました。

（すずきかずのぶ）



（おだ ゆうすけ）

4、あめくい競走

きょうぼくは、あめくいきょうそうをしました。あみとはしって、あめがみえないとおもったら、すぐそこにありました。とろうとしたけど、はなにこなが入って、くるしかったです。つぎに、あみが口を中に入れたけど、ぜんぜんとらないから、赤白ぼうしをつっついたけど、とらないから、じゃませずに、まだかなまだかな、とかんがえていたら、あみがあめをとったから、てをつないではしりました。

（かたやま けんたろう）

きょうぼくは、うんどうかいで、あめくいきょうそうに出ました。あめがたべれてよかったです。ぼくは、口のまわりが白くなって、おひげみたいでした。こうじくんとしゃしんをとりました。

（ひらいわ かつや）

（しばた しょうご）

5、帽子取り

きょう、うんどうかいで、おんなのこだけのぼうしとりをしました。わたしは、赤チームになって、二こぼうしをとって、もっととろうとしたときに、ぼうしを白のこにとられてしまいました。すごくくやしかったけれど、赤のほうがのこったこがおおかったので、よかったです。

（むらかみ　さおり）

学区の運動会では、汗びっしょりになって帽子取りをする男の子を応援していた女の子たち。今回は、女の子が帽子取りに挑戦しました。「えい、えい　おー！」のかけ声も勇ましく、あっという間に二個三個と帽子をとる姿も見られ、普段は見られない女の戦いが繰り広げられました。初めての帽子取りに、呆然と立ちすくむ姿もまた、ほほえましいものでした。

（むらかみ さおり）

6、デカパン競走

「デカパン競走」と聞いて、どんな競技を思い浮かべますか？

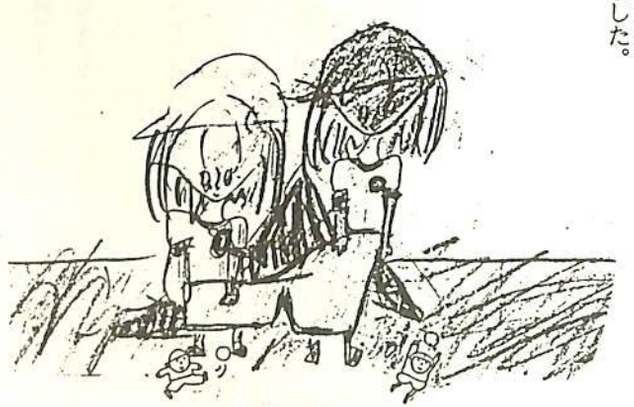
ある学級でのことです。給食の時間に出た「パン」を見て、「おーい、デカパン競走にでる子は、このパンで練習しておこうよ。」と言った子がいました。

当日、大きなパンツを引きずりながら一生懸命走る姿に、応援にも力が入りました。

きょう、一ねんせいのうんどうかいをやりました。ぼくは、しゅうじくんとデカパンきょうそうをしました。パンツをはくのがむずかしかったです。いっしょうけんめいはしりました。とてもたのしかったです。またやりたいです。

（すがぬまあきひろ）

あのね、きょうね、とんちゃんとみちこでデカパンツをやったんだよ。さいしょはね、いやだいやだといっていたんだけどやってみたら、おもしろかったよ。　（つねかわみちこ）



（よしだ かよ）

7、棒引き

白ぼうしと赤ぼうしのぼうひきのたいけつでした。白ぼうしと赤ぼうしが、いっしょに、ぼうにあつまってきました。みんなの手がすべって、ぼうからはなれて、赤ぼうしは、ぼくひとりになりました。白は六にんいました。だけど、たいじゅう二十三キロで、がんばってしょうぶしました。じかんがかかって、そのぼうをてきの白ぼうしにとられてしまいました。でも、五たい四でかちました。二かいせんもがんばるぞとおもいました。（いとう　なおや）

ぼくは、ぼうひきをがんばりました。「おりゃー」とかかっていきました。一かいせんは、白が四ほんで、赤が五ほんでかちました。二かいせんもおなじでかちました。ものすごくおもしろかったです。

（たかつか　ただし）

（ひらの きょうへい）

8、応援の声

みんなでいっしょうけんめいぼうをひっぱって、がんばったようすがよくわかります。たのしくやれてよかったね。おうえんにいかれなくて、ごめん。こんどは、おとうさんとうんどうかいをやろう。

「おかあさん、見に来てね。」と子供に言われ、楽しみにしていた運動会。まだまだ幼くてかわいらしくて、でも、小学生なんだな、と思わせるところもあり、家とは違う一面を見ることができて、良かったと思う。みんなで力を合わせてやる姿は良かったね。

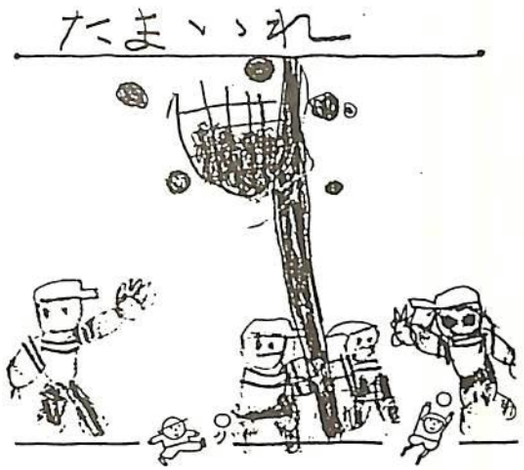
前日から「僕たちが道具を運んだり、ぜ～んぶ自分たちでやる運動会なんだ。」と自慢げに話していました。とても立派にやれて、またひとつ大きくなった感じでした。ありがとうございました。

今年は小学生だけの運動会がなくて、残念だなと思っておりましたら、一年生だけの運動があって、本当に楽しかったです。まるで、おまけをもらったみたいで大変嬉しく思いました。ありがとうございました。

お天気にも恵まれ、親も子も楽しいひとときでした。大運動会ほどの緊張はありませんが、その分本当にのびのびした一年生のかわいい姿を見せて頂きました。こんな行事は何回あっても楽しみです。

「あひるの『あ』」といいながら、一文字ずつひらがなを覚えていた子供たちが、司会を務め、賞状を書き、玉入れのかごを必死で支えるまでに成長しました。準備や運営まで子供に任せることに不安はありましたが、低学年のうちからこうした経験を重ねることが主体的に行動できる高学年を育てることにつながります。四月より、おうちの方々には学級、学年のためにご協力頂き、ありがとうございました。

これからも、学年で楽しい集会ができるように、子供たちと共に、頑張っていきたいと思います。



（すずき りょうた）

忘れられない修学旅行

六年担任　杉本　峰

十一月二十四・二十五日の修学旅行を無事終えて、今、子供たちは旅行記作りをしています。絵本作りの要領で、自分だけの本に仕上げるのが目標です。

出発前から少しずつ見学地について調べたり、自分の気持ちを書き留めたりしてきました。写真を見ながら大仏や建築物の絵を描くのに夜遅くまでかかって取り組んでいた子もたくさんいます。ずっと大切にしておきたい宝物になるよう、最後まで頑張ってほしいと思っています。（力が入って冬休みに突入する子もいるかな。）

（稲　吉　可奈子）

（望　月　　愛）

修学旅行にむけて準備の日々

・「部屋って九人で九・五畳だって。」と家に帰ってすぐにお母さんに話した。
「リュックって山の学習ので行くの。」
「別にいいでしょ。山の学習ので。」
「何か変だよ。」
私は何だかそう思って、友達に聞くことにした。
（上原　瑠衣）

・班決め「どうする。」「どうしよう。」とか言っていてなかなか決まらなかった。でも最終的には、中島君、楠本君、鈴木君と同じ班になった。まだ決めることはたくさんあるので楽しみ。
（帆苅美智子）

・野口君が登校途中に車にひかれてしまった。肩も足も骨折で、歩けないし、松葉杖も無理。でも早く治って一緒に修学旅行に行きたい。
（熊谷　卓也）

・今日、班を決めた。決める時、「私、いや、こっちがいい。」などと文句があったけど、最終的には、みんなが認め合えたので良かった。けんかをせず、みんなで仲良く行動したい。
（川口　美希）

・他にも同じ班になりたい子がいたけど、この班で楽しくやっていきたい。
（尾崎有起子）

・しっかり学習して、しっかり遊んで、奈良と京都を過ごしたいと思っている。
（杉浦　聳）

・今日、家に帰ってから、京都にいた時に好きだった茶だんごを食べたくなった。茶だんごは宇治茶を使ってできている。おみやげにぜひ買ってこようと思っている。
（中島　浩平）

・お母さんと上着の話をした。「いいんじゃない、コートはコートでも腰から上ならいいんじゃない。」と母の声。本当に言いのかな。心配だからお姉さんにもらったジャンパーを着ていこうかな。
（山田麻友美）

・今、体育館でバスとか新幹線の乗り方の練習をしています。一分ぐらいで、さっと乗らなければいけません。私は新幹線の時ちょっと遅れてしまうので、もっと早く乗りたいです。
（天野　麻由）

京都・奈良で

・大仏はすごく大きくて、大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴の開いた柱がありました。でも、人がいっぱいで私はくぐれませんでした。
（浦島明日香）

・大仏の鼻の穴をくぐった時は感動した。ドラは全然でかい音がしなくてくやしかった。
（降籏　俊一）

・正倉院の校倉造りはすごく複雑で、作った人はすごいと思った。
（大野　孝輔）

・二月堂。けっこう古そうなものなのに、つくりがしっかりしていました。
（南　友希恵）

・金閣寺。すごくきらきらしていてまぶしかった。上の方に鳥が乗せてあってその上にからすが止まっていたので何だかおもしろかった。
（鈴木　秀淳）

・すごくきれいで、もっとすごく近くで見てみたかった。
（松岡　慧）

（永　田　拓　章）

・平等院鳳凰堂の真ん中へんに阿弥陀如来像の顔が外から見えるように穴があいていたのにおどろいた。（別所　猛）

・阿弥陀如来像も大きかった。雲中供養菩薩がいっぱいあった。（野口　祐一）

・清水寺。ぼくは高所恐怖症で清水の舞台の上は怖くてたまらなかったけど、紅葉がきれいだった。（松井　佑輔）

・「健康・恋・勉強」があったけど、私は勉強の水を飲んだ。本当に願いがかなうのかなあと思った。（畔柳恵利子）

・夜寝るのが遅かったためか、起きるのが遅かった。それで朝食が全然口に入らず、残してしまった。二日目は朝から映画村が楽しみだった。（佐々木章人）

・一番良かったのは寝る時です。秀淳君と降簇君・松井君が三人でないしょ話をしていて「耳をふさいでいて」と言われたけど、ほとんど聞いていました。（楠本　淳一）

・夜、熊谷君たちが布団を取ったり、まくら投げをしていたりしたが、それも楽しかった。大仏を見て何であんなにでかい物が作れたんだろうと思った。ちょっとさわってみたかった。（磯山　理）

（野々村　涼　子）

・ぼくは、奈良の大仏さまの鼻と同じ大きさの通路が通れてよかったです。（酒井　亮太）

・鏡の前で立っていたら店の人に「四百円ね〜。」と言われて何かわからないうちに買ってしまいました。少し悔しかったです。（内田美和子）

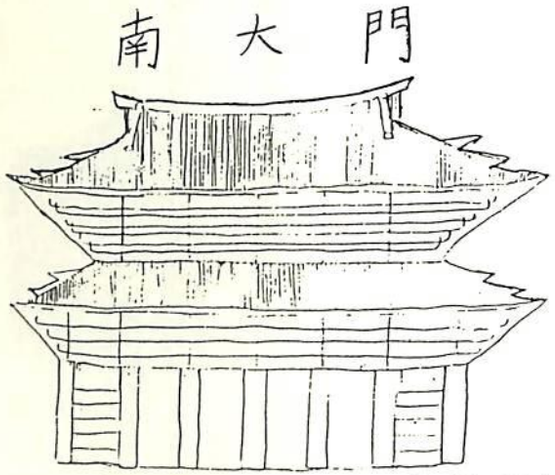
・新京極で班の子のお土産をたくさん買いました。たくさんの店に行ってどれにしようか迷いました。（鶴田千咲子）

旅行を終えて

・「どこが一番楽しかった。」と聞かれ、買い物も楽しかったし、寝る時も楽しかった、いっぱいあって返事に困ってしまうくらいでした。（鈴木さやか）

・一番初めに話したことは、「世にも不思議なブラックアート」です。そうしたら、お兄ちゃんは二、三回で「な〜んだ。簡単じゃん」って言ったんです。ショック。なかなかわからなかった先生と私たちって・・・・。（野々山すなお）

・ガイドさんから聞いた「早起きは三文の得」の話をしたり、三時の宇治茶のCMや想像よりきれいだった金閣寺のことを家族に話



（中島浩平）

しました。

（稲吉可奈子）

・「映画村に暴れん坊将軍の人が来た。」といったら「にせ者でしょ」と言われた。「特別ゲストで来てたよ。」と言ったらわかってくれた。

（安田　尚由）

六年生にとって十一月は修学旅行一色に染まったひと月でした。五日（土）の説明会を皮切りに、子供たちの会話には「どんな服にする」、「カバンってどれくらいの大きさがいいの」「本当にかくし金は、いけないの」等々旅行についての話題が良く出るようになりました。

当日までわくわくしながら準備を進めていくのだろうと思っていた矢先、野口君が交通事故に遭ってしまいました。

「野口っちゃん、修学旅行に行けるの」

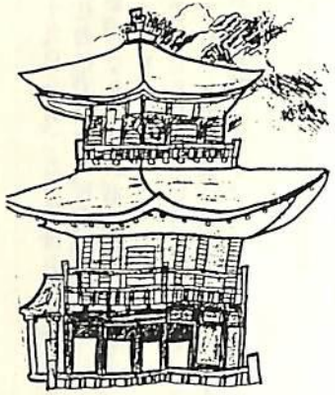
クラスのみんなの心配は、すぐに旅行のことへとつながります。一人ひとりがどれだけ楽しみにしている旅行かお互いに気持ちが分かるからでしょう。

二組のグループ決め、乗り物の座席決めは、「ここが一番入口に近いよね」という子供たちなりの気配りが見えかくれしながら進んでいきました。一つ一つ決めながら、修学旅行への思いがふくらんでいくのがわかります。自分にとっても、友達にとっても〝いい旅行〟にしたい。そうは言っても時にはわがままな面ものぞきます。友達と意見が合わなかったり、自分に心配事があったり。このままで大丈夫かな、などと私が心配していると、

「先生、お見舞いに行ってきた？どんな様子だった？」

と優しい声に助けられることもありました。全員で行けるかどうかは、野口君の運次第。みんなの心の中に、自分でやれることは手助けしてあげたいという気持ちがあり、野口君も病院で左手で食事をしたり、左手で漢字を書くなどの努力をしていましたから、後は時間が解決してくれるのを待つばかりでした。

今、振り返ると事故から十日後の十八日に退院、十九日に登校、日曜日をはさんで二十一～二十三日で調整して当日を迎えられたことは驚くべきことです。クラスでも、「どうなの？」と返事をせかされながら、「学校に来られないとねえ」とごまかし、ぎりぎりまで決定できないでいたことが直前の数日間をものすごく長く感じさせたような気がしています。車いすで参加することを真剣に心配し、他校の例を教えてくれたり、旅行者の方に新幹線の乗り降りについて連絡してくれたり、たくさんの人がかかわったことを私自身決して忘れないでしょう。そして、同行された野口君のお父さんに限らず、全員が家族の温かい心に守られて、ここまで成長してきたことを忘れないでほしいと思っています。



（加藤健太）

（中澤真由）

ぬし市仏壇店見学記

五年担任　竹平　真仁

十一月二十九日（火）この日は五年生の子供たちが楽しみにしていた「ぬし市仏壇店」見学の日です。

五年生の社会科では主に日本の産業について学習します。子供たちは、自動車工業のような近代的な工業について学ぶ一方で、古くから伝わる伝統的な工業についても学ぶことになっています。今回の見学もそうした目的で行くことになったのです。

しかし、なにしろ仏壇という、子供たちにとってはなじみの薄いものが、どのように子供たちの目に映ったのか、私たちとしても、とても興味のあるところです。そこで今回は子供たちがまとめた見学記録をもとにして、当日の様子を再現したいと思います。

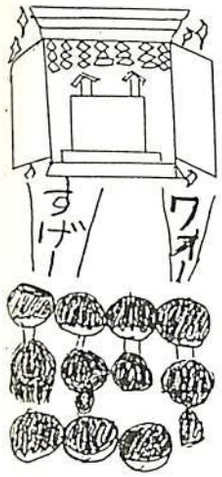
それではいよいよ学校を出発です。

ぬし市仏壇店に着くまで歩きながら仏壇の話やいろいろな話をしながら歩いていきました。どんな仏壇があるのか。金箔はどうやってはるのか。楽しみでした。（袴田　沙木）

ぬし市仏壇店に行くのがとても楽しみだった。それは仏壇のことをあまり知らなかったので、仏壇のことや作り方などを教えてくれるのでうれしかったからだ。（柳瀬　奈緒）

ＪＲの踏切をわたり、約三十分のんびり歩いて南自動車学校のそばのぬし市仏壇店が見えてきました。

仏壇店の駐車場についてお店の中に入ると仏壇がずらっと並んでいた。仏壇のことでいろいろな疑問や問題がわかると思ったら、それだけでわくわくしてきた。（三宅明樹子）



竹之下　巧

うわあ大きい。とてもびっくりしました。奥に入っていくとおばさんたちが仕事をしていた。そこには輝く金があった。今まで見たことがなかったので、何もかもびっくりした（佐々木　環）

中ではお店の方がお待ちで、早速説明を始めて下さいました。その説明を子供たちは次のようにまとめています。

三河仏壇の歴史…もともと三河仏壇というのは、一七〇三年、仏商の商八という人が作り始めたらしい。そして一九七八年、三河仏壇は伝統的工芸品に指定されたのだという。（山本　幸生）

原材料…木はひのき、けやきなどで日本で生産。金箔は石川県金沢市で一枚五百円で買う。うるしは中国から輸入。日本でも生産できるけど少ない。金箔やうるしを使って仏壇を作っていたなんて知らなかった（梅田　健史）

仏壇を作る時間と人数…いろいろと仕事を分けてやって、一台を作るのに十五～二十人はいる。また約八か月かかる。（伊部　香織）

仏壇の種類…三河仏壇は仏壇の上の部分がへこんでおり、まるでもちがふくれたような感じ。それからちょっと低い。これが三河仏壇「うねり仏壇」です。これのとなりに置いてあった仏壇は、名古屋の「尾張仏壇」だそうだ。これの特徴は、上の部分が横に一直線になっており高い。（安井　克）

仏壇の形…どうして戸が二重かというと、家のように中があって障子があって雨戸がある。（伊与田　仁美）

一通り説明を聞き、質問にも答えていただいた後、子供たち一人ひとりに彫り物への金箔はりを体験させて下さいました。実は子供たちもこれをたいへん楽しみにしていたのです。

見たら、金箔をくちゃくちゃにはっていたけど、それできれいになるのかなあと思った。それで見ていたらおばさんが筆を持って金箔をはらったらすごくきれいになるからすごいと思った。（早川　佳吾）

最初はピンセットで金箔をはると思ったが実際は竹ばしだった。ぼくは一枚はった。金箔をはる前に竹ばしの持ち方を覚えた。わりと金箔をはるのもおもしろかった。（酒本　正浩）

（金箔は）すごく軽くて紙よりうすいんだって。はり方を教えてもらったけどうまくできなかった。女の人は上手で親切に教えてくれた。（遠藤　芳江）

林田　美紀

紙より軽く薄い金箔をあつかうには、うかつに息もできません。子供たちも真剣そのもの。心に残る体験となりました。

次はすぐ近くにある工場の方へおじゃましました。こちらでは主に仏壇の作り方について説明を聞きました。

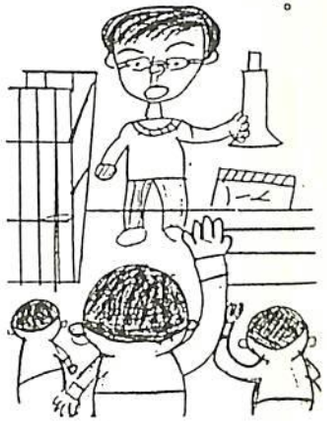
作り方…工場でやるのは十一工程。時間をかけるのが一番大事なのだそうだ。彫り師、塗り師、天井師、屋根師がいて、その人たちが作っていくということだ。工場で見た仏壇はまだ色をぬっていなかった。迫力はなかったが、作った人の一生懸命さがわかるような気がした。（松永　友理）

うるし…うるしを木にぬるまで約四か月ぐらいかかる。うるしは九十九％が輸入で、わずか一％が国産だ。岩手県、広島県の辺りでうるしはとれる。昔は台湾やベトナムなどの国から輸入していたそうだけど、今は中国から輸入している。一台の仏壇に二キログラムぐらいのうるしが使われる。（秦野　知子）

こちらでは、話の合間にクイズをまじえて、楽しく説明して下さいます。

次におじさんはクイズをしてくれた。（略）最後の「うるしの木からは半年でどれぐらいうるしがとれるでしょう。」というクイズは当たったのでうれしかった。（戸村　真由美）

たっぷりお話を聞いたので、お礼を言って帰路につくことにしました。さて、子供たちの目には伝統工業はどのように映ったのでしょうか



小島　佳隆

●物一つ一つに人間の手が加わっていると思うと仏壇はすごいと思った。（山崎　雄作）
●機械を使わず一つ一つ手作りだからすごくおどろきました。（杉浦　香）
●日にちがかかっているから、ご先祖様に見守られているような気がしていいなあと思いました。（小林　かの子）
●仏壇はきれいで素敵だなあとは思うけど、何というのか、若い人にはわからない。でも年をとればその感情がわかると思う。（川村　沙織）
●仏壇を作るのにすごい時間がかかるから、作る人が協力しないといけないんだなと思った。（遠藤　与志郎）
●おばさんが一枚一枚ていねいに速くてきぱきとやっていた。すごいと思う。（渡辺　敬太）
●うるしを使ったクイズもおもしろかったし、本当に小さい仏壇もあった。（川崎　悟）
●金箔一枚が五百円ていうのはちょっと高いなと思った。（牧原　史典）
●大きい仏壇は一千万円以上もするなんておどろいた。いろいろな材料を使いじっくり作ったんだ。（高木　美沙）
●みんなのチームワークみたいなものがないといい品物ができない。（村上　幸弘）
●仏壇一つを作るのにもかなりの苦労をすることを知った。（板谷　篤史）
●仏壇はたくさんの職人さんと、いい木材がないといけないんだと思った。（豊田　直樹）
●うるしなんてどういうものか知らなかったけど、どういうものかわかった。金箔はりもやらせてくれたのでうれしかった。（青山　祐巳）

お店の方のご協力でたいへん良い学習になりました。子供たちにとっては伝統的なものを身近に感じることができたようです。

学習発表会に向けてGO！

四年担任　杉浦　美香

二学期の終わりに子供たちから、

「先生、学芸会何やるの？」

「今年から学芸会じゃなくて学習発表会なんだよね？何やるの？」

という声が聞かれた。にこにこ嬉しそうな子供たちの表情。学習発表会をとても楽しみにしている気持ちが良くわかる。

「桃太郎やろう。」

「それならクラス全員出られるよ。先生も鬼の役で出られるじゃん。」

「こらっ。」

などという冗談まで飛び出したほどだ。

冬休み。学習発表会で何をやろうかと、私は悩んだ。人を思いやる気持ちを育てたいという願いから、四月から今までさまざまな本をクラスの子供たちに読み聞かせてきた。学習発表会でも、人を思う気持ちがつづられている物語に取り組ませたいと考えた。そこで選んだ物語が、アンデルセンの『雪の女王』である。その中でも、少年カイと少女ゲルダの愛情物語という面を強く打ち出していきたいと考えた。

三学期の始業式の日、「学芸会では、『雪の女王』をやります。」

と子供たちに話すと、男子たちはからは、

「先生、これ、女の方がいい役だね。」

とちょっぴり不満そうな声。しかし、何だかんだと言いながらも、いざ配役を決める時になると、「おれ、絶対この役がいい。」

などと主張する者も現れて、楽しくやる気に満ちた雰囲気が教室中を包みこんでいった。

ぼくは、山ぞくの役だから、いつも大きな声ではっきりと間をあけてせりふを言うようにしようと思っています。だけど、そう簡単にはできないので、早くそういうのを覚えてしまいたいと思います。

（辻村　賢吾）

ぼくの役は、氷の精だ。氷の精は、踊り以外あまりむずかしくないから、氷の精になってよかったなあと思った。氷の精は、テーマ曲もおもしろいからなおさらなってよかったと思った。

（小田　次郎）

さあ、練習だ。

・せりふの言い方、動作は自分で考える。

・大きな声ではずかしがらない。

・間をあけてゆっくり話す。

を目標に練習を始めた。が、……なかなかうまくいかない。二週間で「下見の会」が来てしまう。それまでに何とかある程度満足のいくものに仕上げたい。私も一生懸命、子供たちも一生懸命だ。思わず大きい声が出てしまったり、厳しい注文をつけたりしてしまう毎日。それでも子供たちは、授業後教室に残って踊りを考えたり、放課にも頑張って役作りをしたり、本当によくついてきてくれた。

学習発表会の練習をしました。「帰れ！」と強く、おこりながら言うのがむずかしいと思いました。みんなはうまく言えるんだから、ぼくもがんばって言えるようにしたいと思いました。

（小林　篤史）

わたしの役は、ゲルダです。わたしは、もっとふりつけをしなくてはと思うのですが、なかなか決まりません。声は大きい声を出しています。本番にむけてがんばりたいと思います。

（成瀬　佳織）

このごろ、放課の時間を使って、学習発表会の練習をしています。声を出すだけで、動作もつけずにぼう読みだったので、先生にしかられてたいへんです。特にみんなで合わせたりするのは大変です。ばらばらで何回も練習しました。何とか合うようになってきました。完べきな劇にしたいと思います。

（小西　さや香）

四年生は、もう高学年の仲間入り。クラスの中で、大道具・小道具・照明・効果音・幕係を作り、自分たちで考え、自分たちで劇を作り上げていってほしいと思った。そこで、「役を演じる人は大切である。でも、蔭に隠れているけれど、劇を作っていく上で、係も、とても大切である。責任を持って係の仕事を行うこと。」という話をして、係を決めた。子供たちの取り組みはすばらしく、私はとても頼もしく感じた。

ぼくと三輪君は、照明もやりました。初めはやり方がわからなかったけれど、やり方がわかってからは簡単にできるようになりました。帰りの会が終わってから、三輪君と、照明の色も決めました。

（稲石　卓也）

わたしは、このごろ学校では、役よりも効果音の方をがんばっています。その分、家では役の方をいっぱい練習しています。例えば、声の聞こえにくい後ろの方までしゃべっている内容がわかるように、動作を大げさにするように考えています。学校では、前に書いたように効果音をがんばっています。第一場面では、シンバルをやります。「ガシャン」の音も、ただたたくだけではいい音が出ません。力が足りないようです。教会のかねの音は、とてもむずかしく感じます。たたくばちの木の部分が当たると、カーンと音が高くなってしまい、だからといってしんちょうにたたくと音が小さくなってしまいます。　うまくいかなくて、代わってほしいと思うことが何度もあったけれど、もう決まったことだし、できないから代わるなんて自分勝手になってしまう。それに、みんなもがんばっているんだし、わたしもがんばらなくちゃと思った。

（中原　真里）

こんなにも一生懸命がんばっている子供たち。本番は、きっと最高の劇になると信じている。

一月二十九日（日）の学習発表会では、絶対に一つもまちがえずにしっかりやりたい。がんばるぞ。　（森本　舞衣）

くらしのうつりかわり

三年生担任

「先生、教頭先生のお話は、ものすごくおもしろかったよ。」

「指にケガをした時の話は、何だか自分も痛くなったような気がしたよ。」

二月の初め、三年生は、教頭先生が子供の頃の話を聞かせてもらいました。子供たちは、自分の今の生活と比べながら、あまりにも違う生活の様子に驚きの連続でした。子供たちは、話を聞いた後、次のような感想を持ちました。

♣昔のおやつは、今みたいにポテトチップスじゃなくて、さつまいもでした。毎日、さつまいもだからおならがいっぱい出たそうです。

（陸田　志保）

♣昔は、車がなかったそうです。それで、自転車で買い物に行っていたそうです。自転車だと冬は寒くて大変だなと思いました。車って本当に便利だなと思いました。

（鈴木　里佳）

♣教頭先生は、包丁で指を切ってしまったそうです。お父さんに見せたら、指を洗って、包帯でぐるぐる巻きにしてくれたそうです。でも、痛くて三日間眠れなかったそうです。昔は、病院には簡単にいけなかったようです。

（三角　達也）

♣昔は、ティッシュペーパーがなかったので、新聞紙をやわらかくなるまでくしゃくしゃにして使っていたそうです。私も家に帰って試してみました。ちょっとだけ穴が開いてしまいました。

（小林　加代子）

♣教頭先生のお話は、おもしろかったり、驚いたりしました。教頭先生の時代は、危ないけど楽しい、楽しいけど危ないという時代だったと思います。またお話を聞かせてもらいたいです。

（大野　愛）

教頭先生の話をきっかけに、子供たちは、昔のことにとても興味を持つようになりました。そこで、自分のおじいさん・おばあさん・お父さん・お母さんが子供の頃はどうだったのかを調べてみることにしました。調べる項目は、食べ物・家の様子お手伝い・遊び・学校の様子の五つにしぼって取り組みました。

食べ物

おじいさん・おばあさんが子供の頃	お父さん・お母さんが子供の頃
むぎごはん　すいとん いもごはん　ぞうすい だいこんめし だいずごはん　（戦争中はいもだけ） たまご（きちょうひん） おから　やさい　豆 小さい魚（にぼし、めざし） くじらのにく いもぎり ふかしいも	ごはん むぎごはん たまごやき　肉より魚が多い 魚　やさい　インスタント食品や冷凍食品はなかった カレーライス くじらのベーコン いもきり　ふかしいも だらやき こうせん 家でとれたくだもの だがし

祖父母、父母の時代の食べ物について話し合いました。だんだん、おかずの数が多くなってきたことやおいしいものが食べられるようになってきたという考えが多かったです。子供たちなりに、生活が豊かになってきたことに気づきました。また、食事のしかたや食事のしたくの変化にも目がむいていき、自分たちの生活と比べながら、生活が便利になってきたことにも気づいていきました。

子供たちの感想

＊だんだん、いいものが、かんたんに手に入るようになった。おじいさん、おばあさんのときは手作りだったので、すごいなと思った。ぼくたちはインスタント食品があるけど、昔はなくてくろうしただろうなと思った。（天野慎也）

＊お母さんの子どものころは、二十円でたくさんおやつが買えた。今でいうと二百円ぐらいだそうだ。今とぜんぜんちがうと思った。（杉森祐美）

＊家族がいつもいっしょに食事をしていたけど、だんだん会社が多くなってきたから家族全員そろわなくなった。（前田涼香）

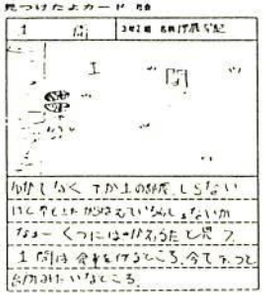
＊冷蔵庫もでてきて、物が長もちするようになった。くらしはすこしづつ楽になってきたと思う。（加藤美和）

＊お父さんやお母さんの子どものころは、おじいさんやおばあさんの子どものころより、電気せいひんが多くなってきた。今は楽にできることが、昔は楽じゃないことが分かった。（高橋沙織）

家の様子

子供たちは、いろいろな角度から昔の家の様子を聞き取ってきました。

おじいさん・おばあさんが子供の頃	お父さん・お母さんが子供の頃
木造・一階建	木造・一階建（二階建ても出てくる）
屋根…わら屋根・かやぶき・煙突	屋根…かわら・トタン・煙突
土間（広い）・大黒柱（太い）・縁側・渡り廊下	大きな柱・納屋
仏間・座敷・つし	窓は木のわく
畳の部屋が多い	ふすまで部屋が仕切られている
一本の柱やふすまで部屋が仕切られている	家が広いから掃除が大変
庭が広い	家は少ない
一軒一軒離れて建っている（まわりは畑）	家のまわりは畑が多い
トイレ…こえだめ・ボットン便所・二本ばし（外）	トイレ…ボットン便所・水洗（外）
風呂…木・たる（外・薪でわかす）	風呂…五右衛門風呂（外・薪でわかす）・銭湯
近所にリヤカーで運んできてみんなで入った	
台所…いろり・かまどで料理	台所…土間・くど・食事の部屋も兼ねる・土足
	木の冷蔵庫



水…井戸（つるべでくむ）	水…井戸
電気…一つだけ・明るくない・ランプ	電気…ラジオあり・白黒テレビ（写真も白黒）
ラジオ・テレビなし	テレビがあるところへ見に行った
暖房…石炭のストーブ・いろり・火鉢	ダイヤル式電話
洗濯…洗濯板（川）	暖房…ほりごたつ・火鉢
車なし（荷車・リヤカー）	洗濯…ぐるぐる回す洗濯機
馬・牛・ウサギ・ニワトリ・鯉・犬・猫を飼う	車あり
牛で田を耕す	犬・猫がいっぱい
兄弟がいっぱい	

今と昔の様子を比べて、子供たちは次のような感想をもちました。

◆昔は木でつくられたものが多い。昔は電気を使うものがあまりなかった。（米留　千加）

◆おふろは、昔はリヤカーなんかで運んで、みんなできょうりょくして使っているからたいへんだ。（鳥居　由紀子）

◆今は水道があって、キュッとじゃ口をひねれば水は出るけど、昔はいどでたいへん苦ろうして水を運んだそうだ。わたしたちはふつうだと思っていることでも、昔ではとてもきちょうなことをやっているんだなぁ。（杉浦　碧）

◆昔おふろやごはんとかまきでたいていたのにくらべれば、今はとてもべんりになった。（伊藤　早紀）

◆今のわたしたちはボタンとかをおすだけで電げんはつくけど、昔は自分たちの力でほとんどくふうしてやったんだな。ひと

つやるだけで、すごく時間がかかってたいへんだったんだな。

（志賀　瞳）

◆今とくらべて昔は生活するのがたいへん。家は一けん一けんはなれているから、となりの家に行くのにも手間がかかるし、台所が土間だから、くつにはきかえなければならない。

（半田　嵩人）

◆お父さん、お母さんが子どものころから農業や動物をかう家が少なくなってきた。

（長井　賀津男）

◆年がすぎるとどうじに電気とかが発たつして、今にどんどん近づいていく。

（平岩　郁哉）

◆友だちの意見を聞いていろんなことを知った。昔にぼくも行ってみたい。

（大嶽　博紀）

聞き取り調査や友達との情報交換で、今と昔の家の様子がずいぶん違っていることに気づくとともに、子供たちの中には昔の生活に対する関心が高まってきました。そして、「ぼくのおじいさんの家には井戸があるよ。」「わたしの家では今でもせんたく板を使っているよ。」「家の人に聞いてさがしてくるよ。」という声が上がり、教室にはたくさんの昔のものが集まってきました。

子供たちは、昔の人々がくらしに使っていたものや当時の写真から、祖父母の子供の頃、父母の子供の頃、そして今の子供たちの時代へと移り変わってきた様子を目で見たり、手で触れたりしながら感じ取っていました。

お手伝い

◎おじいさん、おばあさんが子供の頃

畑や田の仕事：水くみ：火おこし：牛ニワトリの世話：子もり
洗濯：草取り：しばかり：家の手伝いは何でもやった：

＊今よりもお手伝いや自分の役目がとても多い。（辻村　祐子）

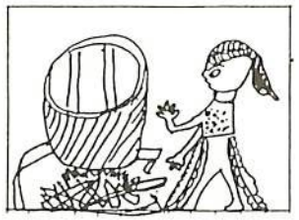
＊毎日ほとんどお手伝いをしていたことがわかりました。（高橋　由紀）

＊今の子どもよりすごくお手伝いをしてものすごく疲れただろうな。（飯塚　和人）

＊昔はあまり楽しくないなあと思ってたら少しはいいなと思いました。でも水くみは重たいし、草取りは汗がじわじわ出ると思います。（梅村　幸平）

＊昔は水道やガスがなかったので、大変だということが良くわかりました。（袴田　紗和子）

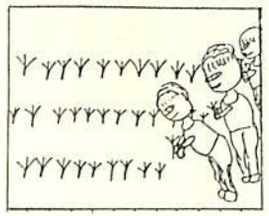
祖父母の時代は、家族の中で自分の役割りがきちんとあったことや、たくさんのお手伝いをやっていたことに気づいたようです。



（大森　崇弘）

（下向　琴子）

（海藤　勇児）



（高木　智子）

◎お父さん、お母さんが子供の頃

薪を拾い、おふろをたく：おふろの水くみ：食事の支度
庭そうじ：障子紙の張り替え：雪かき：りんごもぎ：

＊お父さんはまきを拾い、おふろをたいていたそうです。時代がかわって来て、だんだんお手伝いの仕事が楽になってきたことがわかりました。（辻村　依子）

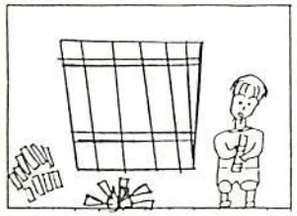
＊今はボタンひとつでおふろをたいたりできるのに、子どもがまきわりまでしていたから本当に良くお手伝いをするなあ。（前河　誠治）

＊今は台所に行けば水が飲めるし、ガスもある。昔は大変なんだなあ。（新徳　祐子）

＊昔へ行ってみたいなあと思う時と、行きたくないなあと思う時があります。（石川　奈帆）

お手伝いの移り変りを調べたり、みんなの話を聞いたりして、人々の暮らしが便利になって、時間の余裕が生まれたことに気づくことができました。

（曽根　あゆみ）



（　早川　朋子）

（林　英一郎）

（鈴木　詩織）

遊び

子供たちの聞き取り調査をもとに、おじいさん・おばあさんが子供の頃の遊びと、お父さん・お母さんが子供の頃の遊びを次の表のようにまとめてみました。

おじいさん・おばあさんが子供の頃	お父さん・お母さんが子供の頃
宝さがし、釣り、缶けり、ビー玉、ケンケンバ、ゴムとび、石けり、こま、竹馬、鬼ごっこ、お手玉、なわ跳び馬乗り、綱引き、おはじきごっこ、はないちもんめ、木登り、ドッジボール、山へ探検に行く、かくれんぼ、たこ揚げ、まりつき、竹の板でスキー、チャンバラ、将棋紙鉄砲、相撲、あや取り、ママごと、ハンカチ取り、竹とんぼ、おしくらまんじゅう、カルタ、けん玉、陣取りめんこ	ポコペン、ボールけり、缶けり、馬跳び、ゴム跳び、フラフープ、石けり、まりつき、ハンドテニス、ハンカチ落とし、筒鉄砲、ドッジボール、縄跳び、崖登り、ソフトボール、長縄、探検ごっこ、花摘み、ザリガニ取り、泥遊び、紙の着せ替え人形、自転車乗り、バドミントン、陣取り、魚釣り、釘打ち、土手すべり、パズル、チャンバラ、めんこ、将棋、鬼ごっこ、おはじき、カルタ、ローラースケート、かくれんぼ、こま、ビー玉、人生ゲーム

子供たちは、それぞれの時代の遊びと、自分たちの遊びを比べながら次のような感想を持ちました。

♣おじいさん、おばあさんが子供の頃の遊び道具は、ほとんど自分で作ったものばかりだった。（野々村　裕）

♣竹馬は買わなくて、本物の竹を切って、作って、遊んでいたんだな。（丹羽　梓）

♣今は、プラスチックなどのおもちゃで遊ぶけど、昔は自然を利用した遊びが多いことがわかった。（竹内　一善）

♣昔は、釣りざおの代わりにざるを使って魚をいっぱい取ったと、お父さんやお母さんが言ってたけど、本当かなと思いました。（山本　浩靖）

♣昔は、今と違って、遊び道具をほとんど自分たちで作っている。特に、お手玉を自分で作ると聞いたので、すごいなと思いました。（徳山　ひとみ）

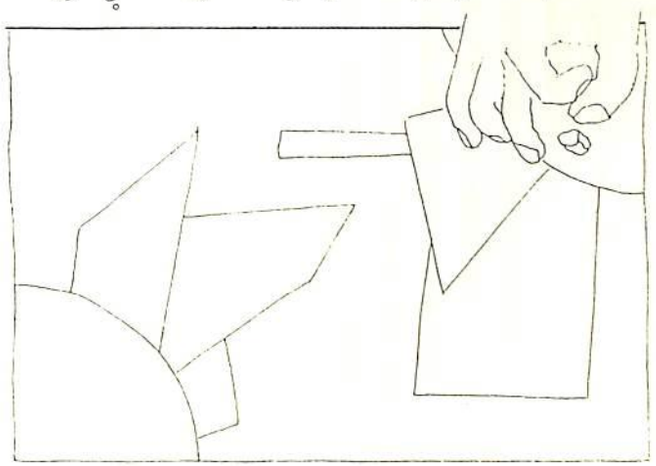
♣今は買ったもの（ファミコンなど）で遊んでいるけど、昔は、自分で作ったもの（紙鉄砲など）で遊んだということに気づきました。ぼくも、自分で作ったもので遊びたいなと思いました。（畔　誠）

♣昔の人は、「作るのも遊びだ。」という気持ちで、遊び道具を作ったんだと思います。缶けり、たこ揚げ、おはじき、まりつきなどがあって、楽しそうだなと思いました。（志貴　真実子）

♣昔の遊びは、自分で作ったり、考えたものばかりでした。昔の人は、遊びの天才だなと思いました。（仲田　浩子）

♣おじいさん、おばあさんが子供の頃の遊び道具は、自分で作ったりしている。それに比べて今の時代は、お店で買ったりしている。お母さんやお父さんの時代は、買ったり作ったりしています。（青木　裕菜）

以上のことから、遊びが、時代とともに変わってきていることがわかりました。



「陣取り」　川口　貢司

学校の様子

学校の様子は、地域差や時代の差があるのですが、だいたい次のようにまとめることができました。

	おじいさん・おばあさんが子供の頃	お父さん・お母さんが子供の頃
校舎	木造・一、二階建て くみ取り式の便所（外） プールなし	木造・二階建、鉄筋の校舎も くみ取り式の便所、水洗便所も プールなし、途中でできた所も 石炭ストーブ
机、椅子	木製、二人掛け 畳の上に正座	木製、二人掛け 今のような机、椅子
昼食	弁当	給食、学校で作っていた 脱脂粉乳 ストーブで牛乳を温める
その他	国民学校で、男女別々 貧しくて学校に行けない子、 戦争のため、疎開してくる子 突撃の訓練、校庭での畑作業 ふろしき包み、かばん	手提げかばん、ランドセル

子供たちの感想

♣お父さん、お母さんの子どものころは、いろいろなものが木だったので、とげが入らないのかなあと思いました。（倉橋　奨子）

子供の頃、教室の床を水ぶきすると、たぴたぴぞうきんに木のとげが刺さったことを思い出しました。当時は、手が霜焼けになっている子も多かったのですが、最近は少ないようです。

♣お父さん（の家）は山の中だから、学校が遠かったと思います。（毎日、学校まで）四キロも歩いたから、足が強くなったと思います。（辻村　友幸）

♣お父さんは、きゅう食できらいな物が出ても残さなかったのは、とってもえらいなと思いました今の子は、残してばっかりいるから、お父さんやお母さんより、物を大切にしてないことが分かりました。（藤本　朋代）

祖父母の時代、戦争中の学校生活は、今とはずいぶん違うことに気付いたようです。

♣まずしい子は、学校を休まないといけないし、なかよしの友だちとも遊べないし、いやだなあと思いました。学校を休むときは、たるいと思うかもしれないけど、学校に行っているときは楽しいと思います。（伊藤　憲宣）

♣昔のまずしい子は、手伝いをしていて学校にも行けなかったのに、今の子は学校ぐらいには行けるので、幸せだなと思った。（小池　佑治）

♣そかいをして、お父さんたちとはなれるのはとてもさみしいと思います。自分の命がなくなるのなら、そかいをしてもいいと思うけど、両親が死んでしまうのはいやです。（畔柳　静嘉）

祖父母の時代、父母の時代、今、と通して考えてみると、現在の自分たちが恵まれていることに思い当たります。

♣お父さん、お母さんのころは、給食も出てきて、少し今に近づいてきたみたいです。（岩瀬　範宗）

♣とちゅうで学校のつくえなどがかわったので、勉強しやすくなったと思います。（小野　美紀）

四、学校ニュース

一年間よろしくお願いします

新学期がスタートしました。九七四名の児童と三九名の教職員で平成六年度がスタートしました。開校十二年目を迎え、上地学区・学校が更に躍進する年となるよう、新たな気持ちで頑張ります。一年間よろしくお願い致します。

学校長　深津　武司　教　頭　松原　晄三　教務主任　菅沼　剛
校務主任　浅井　考司　校務補佐　竹内　孝之　指導員　鈴木　純子　音楽専科　木村　和子
養護教諭　坂爪ひとみ　事務主査　酒井　啓子　校務員　松崎　富香　事務補佐　佐野真由美

一年一組　杉田　雅子（主任）　三年一組　岡本きみ子（主任）　五年一組　鈴木　尚子（主任）
一年二組　寺澤祐喜江　三年二組　古池　初江　五年二組　西田　貫子
一年三組　松永　千鶴　三年三組　高田加代子　五年三組　竹平　真仁
一年四組　冨田　典子　三年四組　鶴田　秀幸　五年四組　岩井　政美
一年五組　清水由美子　三年五組　森下　初子　五年五組　松井　敬子

二年一組　遠山　洋子（主任）　四年一組　熊谷　洋子（主任）　六年一組　高橋由美子（主任）
二年二組　前原　照世　四年二組　太田　智恵　六年二組　杉本　峰
二年三組　鈴木千恵子　四年三組　加納千夏子　六年三組　深津　伸夫
二年四組　松坂　禎文　四年四組　杉浦　美香　六年四組　小田　英宣
四年五組　多田　一孝

牧場から

「上地小はチャボが放し飼いで、山羊もいるよ。」

「ほー、おもしろいね。」

「世話は校務さんの仕事だそうですよ。」

「えっ？・・・・・・」

前任校で、にわとりにほうきで対決していたわたしにとって、きっとからかわれているんだなと思って上地小へ。

早速、教頭先生から

「山羊とチャボと鯉の世話を頼むよ。」

と軽く言われた。やっぱり本当なんだと思い、職員室を見ると、大きめなにわとりが入っている。確かわたしがほうきで対決していたにわとりは、こんな感じのやつだった。でもこのにわとり何か違うぞと見ていると、他の先生が、

「こら、チョウロウまた入ってきたのか。」

と言いながら、ひょいと抱いて外へ連れて行ってしまった。（えっ？チョウロウ。あいつ『チョウロウ』というのか。）わたしとチョウロウの初対面の日であった。

さて、さっそく先生に連れられて牧場へ、（おっ、チャボが歩いている。）（こいつらむかってこないだろうな。）と思っていると、子供が両脇にチャボをはさんで歩いている。（なんでこの子はチャボを両脇にはさんで歩いているの。）と思っていると、また違う子が、チャボを抱えて歩いてくる。（そうか、ここのチャボとにわとりの前ではほうきを持たなくてもいいんだ。）と一人で納得。さて、牧場に到着。確かに山羊がいる。そういえば、幼い頃おふくろの実家の近くに山羊がいて、乳を飲んだ覚えがある。（ちょっと歳を感じてしまう。）わたしが考えていたのは真っ白な山羊で、やや違っていた。それにややや太り気味だ。（これが後々子供（子山羊）誕生につながる。ただし、トカラヤギのクックはただの食べ過ぎであった。）これから、これらの面倒をみていくのかという決意を新たにする一日であった。

柵の中へ

さて、この山羊の名はトカラヤギがクック、屋久島山羊が花子。共にとても大切な山羊で、大事に育てているそうだ。二月にトムという雄のトカラヤギが亡くなり、いまは雌の2頭だけで暮している。とてもおとなしく、人なつこいから大丈夫と言われても、すぐに仲良くなる根性はなく、柵の外から見守る日々が一週間程続いた。しかし、子供は平気で世話をしているので、わたしも意を決して柵の中へ、花子さんは近づくと逃げていくが、クックは寄ってくる。クックは確かに人なつこい。花子は恥かしがりだが、クックはすりすりしてきて、なかなかかわいいものだ。しかし、このクック食事の時は性格が悪い。気の弱い花子を角で押しのけて、自分だけで食べようとする。（道理で太っているわけである。）みなさんぜひ柵の中へ。

花子と子山羊誕生

四月中ごろから、山羊のおなかが大きいのではという声がちらほら。早速、南勤物病院の鈴木豊先生に見ていただいたところ、花ちゃんは間違いなく赤ちゃんがいるとのことで、一同大喜び！二月に亡くなったトムの忘れ形見である。クックはと思ったが残念ながらいないようである。

では、『いつ生まれるのか。』と子供たちから催促されても、こちらはさっぱりわからない。答は『花ちゃんに聞いて。』と言うしかない。何度『いつ生まれるの。』と聞かれたことか。

五月十二日、朝から花ちゃんが時々変な格好をする。そろそろかという予感がする。当日は生活科の指導員訪問の日でガタガタしていると、校内電話で呼び出し。花ちゃんが産気づいた。三時五十分頃であった。

牧場では、子供たちの人だかり、花ちゃんはメイメイ鳴いて、時には苦しそうで力の入ったうめき声をする。こちらも思わず力が入る。周りにいるチャボも何事かと騒ぎ出す。クックも心配そうに小屋をのぞき込む。周りの人間も「頑張れ頑張れ」と声が出る。初めてのお産でとても心配したが、四十分程で無事出産することができた。市からも動物担当の加納先生方が急ぎ来ていただき、手厚く処置をしてくださった。感謝すると共にほっとした。みんな見ているだけであったが、花ちゃんは本当によく頑張った。

四つ足の動物は立つのが早いと聞いていたが、その通りで、すぐに立とうとする。花ちゃんは赤ちゃんをさかんになめ回し、大丈夫かと思っていたが、母親合格であった。

「明日になれば、ぴょんぴょん飛び回るよ」と、加納先生が言っていた通り、次の日から子山羊は牧場の中を動き回っている。でも、花ちゃんは常に子山羊のそばにいて、お互いにメイメイ鳴き合っている。何ともほほえましい姿である。話題を独占した花子と子山羊であった。

ちょっと忘れられたクックはというと、子山羊をいじめることなく、

「クックも赤ちゃんが生まれるといいね。」

と、温かい言葉をかけられている。

喜びの声

わたしは、みんなに花子が赤ちゃんを生んだよと言って、すぐに牧場に行きました。その日は、まだ、赤ちゃんは見えなくて、次の日になったら、赤ちゃんと花子が出てきました。見た時、わたしは「バンビににている。」と思いました。花子、赤ちゃんうんでよかったね。

（野崎　倫子）

花子の赤ちゃんを見た時、とてもかわいいとおもいました。名前なメイです。花子にそっくりで茶色と白です。メイは花子の近くばかりにいます。クックにも赤ちゃんがいるといいなと思っていましたが、友達がいないといっていました。でも、花子クックもメイもみんなかわいいです。（坂口　奈美）

花子さんがメイちゃんを産みました。その時わたしは部活をやっていました。わたしの友達は、産むところを見たという人がいます。わたしはその人がうらやましいです。

メイはもうだいぶ人になれてきたし、体も少し大きくなりました。みんな花子さんやメイちゃんばかりかわいがっているけ

ど、クックもかわいがってあげたいです。

（木村智佳子）

花ちゃんに赤ちゃんが産まれました。毛がフワフワで、体も頭も手足もみんな小さくて、とてもかわいい赤ちゃんですお母さんにちょこちょこついていく姿や、元気よくぴょんぴょん飛びはねる姿がしかのバンビににています。こんなかわいい姿を見ていると、飼育係になってよかったなと思います。

（藤原　美沙）

いよいよ夏休み

選手激励会

子供たちが待ちに待った夏休みがいよいよ始まりました。七月二十日第一学期終業式が行われました。終業式の後、五年生の代表委員が中心となって、小学校球技大会にむけての選手激励会が行われました。男子バレー部、女子バレー部、バスケット部、ソフトボール部、サッカー部、水泳部とそれぞれの部活動のキャプテンから力強い決意が述べられました。

また、各部独特のかけ声をステージの上で披露してくれました。上地っ子の心意気が伝わってきました。上級生のユニホーム姿、力強いかけ声に下級生の熱い視線が注がれていました。文化部の活動も運動部に負けず頑張っています。鼓笛・バトン部は、日頃の練習の成果を演奏し、運動部頑張れと力強い音を響かせてくれました。また、合唱部は、ＮＨＫ合唱コンクールにむけて、熱心な練習を続けています。その成果を全校の前で披露してくれました。コンクールでもぜひ頑張ってほしいですね。暑さに負けず、運動部も文化部も上地っ子らしく、力いっぱい活動している様子が伺われ頼もしく感じました。

五年生の大林亮介君の指揮により三三七拍子の力強い応援がありました。全校児童の心からの応援に応えてくれることと思います。

水不足

水不足により全市の学校のプールは使用できません。子供たちが楽しみにしていたプールでの水泳の授業ができません。

授業だけではありません。冬場から陸上練習を続けてきた水泳部は、いよいよプールでの練習ができるという時にプール使用ができなくなってしまいました。小学校水泳大会も中止になってしまいました。ずっと練習を続けてきた水泳部の子たちの落胆ぶりは・・。でも、そこは上地っ子。暑い中の陸上練習は欠かしません。この努力はきっといつか報われるでしょう。

小学校球技大会

七月二十一日から小学校球技大会が行われました。選手激励会での決意のように、上地っ子の活躍が見られました。

ソフトボール部　一回戦　対附属小　九対二で圧勝　二回戦　対男川小　五対一で惜敗

（二回戦　対男川戦では前半は優勝した男川小と互角以上の戦いをしましたが、惜しくも敗戦。）

バレー部男子　予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメントで伏兵六南小に惜敗。六人制での力を発揮できず残念。

バレー部女子　決勝戦で宿敵六北小に善戦。惜しくも優勝を逃したが堂々の準優勝。

バスケット部　接戦を勝ち抜き、決勝戦まで駒を進めた。決勝戦では、一ゴール差で優勝を逃す。価値ある準優勝。

サッカー部　予選から圧倒的な強さを見せ決勝トーナメントに進出。練習量に裏付けされた確実なプレーで堂々の優勝。

僕たちは、今まで一生懸命練習をしてきました。ぜったい練習量ならどこにも負けていませんでした。だからこそ優勝できたのだと思います。昨年、常磐小学校に惜しくも一点差破れてしまいました。今年は一回戦でいきなり常磐小学校とあたりました。少し不安だったけど、なんなく四対０で破りました。決勝戦は羽根小学校とあたりました。とても緊張した試合でした。でも、試合をやっている時が一番楽しいです。

僕は、この試合が終わって知ったことは、やらなきゃできないということです。つらいこと、苦しいことも何ぢかありました。でも、それに耐えて練習を頑張ってきました。僕はこのことを頭に入れて、これからのいろいろなことを頑張りたいと思います。

六年　真野　孝二

わかしゃち国体　マスゲームに参加

十月三十一日、上地小学校六年生が「わかしゃち国体」アーチェリー会場でマスゲームを披露しました。上地小、福岡小、竜美丘小、広幡小、井田小の五校による合同演技でした。本校の鈴木尚子先生の指導により、五校による合同練習が何回も行われました。当日は、晴天に恵まれ、今までの練習の成果を十分に出し切りすばらしい演技を展開してくれました。

参加した六年一組の子供たちの感想を紹介します。

・最初は回りの人を見ながらやっていたけど、今は少しカウントできるようになった。本番は今までで一番良かった。練習してきた甲斐があった。（飯塚　拓人）

・五十年に一度のマスゲームができてよかった。しかられたり、足が痛くなったり本当につらかった。本番に一生懸命できたのでよかった。（市川　兼吾）

・今日は今までと違って、みんな真剣だった。僕は今までやってきたことや教えてもらったことを全部出し切った。（宇井　綱要）

・今日は、春の場面では、城を作る時に動かずに土台がやれた。すすきの場所に行くのも迷わずにできた。冬の群衆の場面でもいつもよりしっかりとできた。（太田　誠）

・本番では今まで習ったことを精一杯やった。今までわかしゃちの練習をしてきてよかったし、みんなに感動してもらってよかった。（小石　秀昭）

・練習の時よりてきぱきしようとして緊張していたら、あっという間に終わってしまった。楽しかった。（小嶋　巨治）

・自分でカウントすることができるようになってよかった。今までたくさん注意されて間違えてしまったところが多かったけれど、今日は間違えないでできてよかった。（孤方　豪昭）

・最初の方より後の方は楽しく、しっかりできてよかった。リハーサル、本番は特によくできた。（杉浦　航）

・いつもより一生懸命やった。城の位置見えなかったけど、後で見つけて城は一発で成功したので良かった。長い時間をかけてやった甲斐があった。一番の思い出になると思う。（杉森　裕）

・春も夏も秋も冬も、今日はみんなすごくよくできた。このことを忘れずに、やればできると思って毎日やっていきたい。（田中　星路）

・風が強く塔が倒れそうな時は、歯を食いしばって頑張った。そんな時のことを思い出したら緊張が少しずつほぐれてきた。五十年に一度の国体に出れたことを、初めは僕たちの時だけ・・と思っていたけど、今思うと良かった。（鈴木　斉元）

・二か月間練習した甲斐があって良かった。みんなを感動させる演技ができたので良かった。（古川　貴嗣）

・四十九年に一度くる国体がやれてうれしかった。自分ではとてもうまくできたと思った。（星野　慎介）

・今まで練習をやってきた成果が本番に出せたので良かった。これから委員会活動とかにも進んで動いたり、下級生の手本となるよう頑張りたい。（真野　孝二）

・今日の自分はすごく気合いが入っていた。・・だらだらやるとおもしろくも何ともないけど、思いっきりやるとおもしろいということがわかった。（長江　脩）

・今まで場所が良くわからなかったけど、今日は自分では二百点だと思う。（円山　徹）

・二か月練習してきてやっと間違えなくなった。初めは川の手を振るのがすぐに間違えたけれど、練習するにつれて間違えなくなった。炎も変わったところがあったけど、そこを間違えないように練習した。最後にお客さんの方に向かって手を振る

時に少ししか笑えなかった。（山川　元輝）

・自分にこんな力があるとは思ってもみなかった。初めの練習と今ではすごい違いがあると自分でも思う。指先を伸ばすところや、思いっきり動くところが今日はすべてできた。（赤堀　加奈）

・今日の本番はいつもより頑張ってやった。とてもすばらしいものができたと思った。このマスゲームをやって本当に良かったと思った。（浅野　麻衣）

・今までわかしゃちの練習をやってきていろんなことがあったけど、一生に一度のことなのでずっと心にしまっておきたい。（石川　真夕）

・今まで二か月間練習してきて、初めと動きが変わったところがすごくたくさんあった。少しずつ変わるにつれて、どんどんいいものになってきたと思う。春、夏、秋、冬と全部教えてもらうと今度は指先まで伸ばして・・などと、細かくなってきた。細かいところまでそろえて、一生懸命やった演技を自分でも見てみたいしやれてよかった。（伊藤　有希）

・最初は嫌いだったのに、いつの間にか一生懸命頑張ろうと思えてきた。今日本番をやったので、もう最後だなと思って一生懸命できたのでとてもうれしい。（植村　優子）

・この二か月間でこんなにすばらしい演技ができるなんて思わなかった。練習した甲斐があったんだと思う。今日の本番で、百パーセント精一杯の力が出せたので良かった。（岡田　愛生）

・今日の本番で練習よりうまくできました。花火の時ちょっと間が空き過ぎたかなと思いました。（黒柳　美香）

・一回目の合同練習は、初めてでみんなとうまく合わなかったけど、二回目、三回目とになるにつれて合わせることができるようになった。それを今百パーセントの力で頑張ることができた。（小林　里美）

・二か月間頑張ってきて本当に良かった。いろいろ厳しいところもいっぱいあったけど、その分本番が泣けるぐらいにうまく

できた。

（小林　祥子）

・初めにやった時と思うとすごく上達したと思う。指先が伸びていたり、動きが大きくできたり、私はやってよかったと思った。また、五十年後に国体が愛知県に来るので、その時が楽しみだ。

（佐野　恵子）

・たったすこしの演技のために、二か月も練習してきたので、終わった時「もう終わっちゃったのか」と思った。でも、この二か月間で協力することなどいろいろなことを覚えることができた。わかしゃち国体のマスゲームに出て本当に良かったなあと思う。百点満点が取れて、とてもうれしい。

（下河内清夏）

・とうとう今日は本番、前より草が暖かくてやりやすかった。春、夏、秋、冬全部精一杯やれて大成功だった。お客さんにたくさんの拍手をしてもらった時は、とても嬉しかった。マスゲームを今までやって来て良かったと思った。（鈴木　春佳）

・二か月も練習したのがうそみたいにあっという間に終わった。一生懸命やったのでとてもいい気持ちになる。最初運動会の練習と合わせてやっていた時は、川の練習しかやっていなかったので、この頃思うと懐かしいくらいだ。振り返ってみるといろいろなことがあった。

（曽和由利香）

・最初は何をやるか不思議だった。でも、最初から最後までお客さんの拍手が聞こえてきてすごく気持ちが良かった。とてもいい思い出になった。自分でも精一杯頑張れた。

（早川　容子）

・今までたくさん練習してきて、組み立ても失敗して全然だめだった時もあったけど、今日は全部失敗せずにできてとてもよかった。

（中瀬　直子）

・最初のうちはどうしたらいいか迷って失敗したこともあったけど、回数を重ねていくうちにだんだんとできるようになっていった。今日は少し失敗したこともあったけど、今までで最高だった。

（藤原　絵美）

・練習の時にはまだ暑かったし、寝るところとか全然やりたくなかったけど、本番に近づくにつれて少しずつやらなきゃあと

思ってきた。本番にたくさんの人が感動してくれて、今までやってよかったと思う。練習から本番まで精一杯やれるようになった。

（桃井　由紀）

担任の先生の言葉

二か月間練習に練習を積んできた子にしか書けない感想ですね。わかしゃち国体という大きな舞台だからこそ、練習のつらさも完成した時の喜びも大きかったのでしょうね。上地小のグランドや合同練習では味わえなかった、緊張感漂う本番のグランドでの君たちの熱い思い、力一杯の演技に先生も胸が熱くなりました。何よりも、表現の嫌いだった子が表現することの喜びを見つけることができたのがうれしいですね。

この経験が、これからの君たちの学校生活に役立ってくれるように願っています。

わかしゃち国体にかけた六年生の思いの一部を紹介しました。六年生全員が同じ気持ちで頑張り、同じ感動を味わえたことが大きな収穫でした。六年生のみなさん、高橋先生、杉本先生、深津先生、小田先生、木村先生、そして鈴木尚子先生本当にご苦労様でした。

アレルギーについての学習会

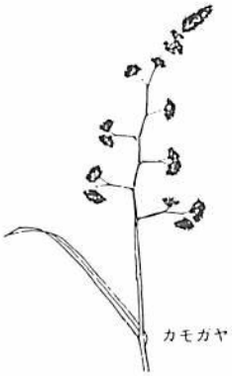
児童保健委員会

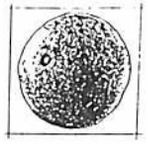
保健委員会では、四月から、耳鼻咽喉科の石田先生に講師をお願いし、アレルギーの勉強をしてきました。石田先生に顕微鏡を借りて、水の中の生物や、掃除機のチリなど、日ごろ見たことのない顕微鏡の世界にみんなとても感動しました。五月から六月にかけて、学区の公園や道路沿いの雑草の中でアレルギーの原因になる草を石田先生と一緒に探しに行きました。大谷公園にはカモガヤがたくさん生えていました。カモガヤの花粉は、花壇に咲いている花の花粉よりずっと小さいことがわかりました。衣浦線の道路沿いにはイタリアングラスがたくさん生えていました。

アレルギーの症状や、予防法、ハウスダストを少なくするための掃除の仕方などを勉強しました。先生方にアレルギーに関するアンケートもしました。半年かかって、勉強したことをビデオにまとめました。たった八分のビデオですが何回も何回もやり直してやっとできました。

十二月十四日に、石田先生をお招きし、六年生全員で学習会をしました。ビデオを見て、石田先生のお話を聞きました。みんなとても熱心に聞いて、時間がなくなってしまうほどたくさん質問がだされとても有意義な会でした。

次に、石田先生のお話を簡単にまとめ紹介します。





カモガヤ花粉
(φ35μm)

耳鼻咽喉科　石田正人先生のお話

免疫

みんなの体は、ウイルスや細菌や寄生虫にとっては、ものすごくおいしい食べ物です。ウイルスや細菌はどうしたらみんなの体の中に入れるだろうかと、いつもすきをみています。そういうウイルスや細菌を外敵と言います。みんなの体の中には免疫という働きがあって、そういう外敵から体を守っていてくれるので、すぐに病気にならないんです。

外敵が侵入

弱い敵だったら

いつもパトロールしているおまわりさん

ナチュラル・キラー細胞　（リンパ球のひとつ）
マクロ・ファージュ　（白血球のひとつ）
好中球　（白血球のひとつ）

が戦う。おまわりさんはあまり強くない。

戦いに、みんなはほとんど気がつかない。

強い敵だったら

パトロールのおまわりさんは、体を守る武器を持った軍隊を呼ぶ。

いろんなリンパ球が集まってきて大戦争になる。この時、熱が出るのは、みんなの応援団。インフルエンザはこれにあたる。

体中で戦っているのだから、大好きな勉強もやめて、体を休めよう。

寄生虫など大きな敵だったら

肥満細胞とＩｇＥ（免疫グロブリン）が合体して大さわぎをする。

くしゃみ、咳で吹き飛ばす。鼻水、タン、下痢で洗い流す。
鼻づまり、ぜんそくを起こして蔵を入れないようにする。
好酸球（白血球のひとつ）が毒殺をする。

間違った戦い・・・アレルギー反応

みんなの体の中の免疫も時々、間違った戦いをしてしまいます。寄生虫なんかいないのに大騒ぎをしてしまうことがあります。これがアレルギー反応です。何の害もない、ダニや花粉を寄生虫と間違えて戦ってしまうんです。最近はあまり見なくなったので間違えてしまうのです。アレルギー反応は間違った免疫反応。熱が出たり、体がだるくなったりするのは正しい免疫反応です。本当は敵はいないのに、敵を入れないように鼻がつまったり、空気を吸わないようにぜんそくになったりします。敵を早く追い出そうと、くしゃみや咳をだします。毒ガスを出したりしますが、敵がいないので、八つ当たりをして、自分の城壁を壊してしまいます。するときれいに並んでいる粘膜がぼろぼろになってしまいます。神経がむき出しになって余計に鼻がむずむずしたり、ぜんそくがおきやすくなったりします。正常な粘膜が、ぼろぼろになって、バイキンやウイルスがどんどん入って来てしまい、本格的に熱を出したり膿鼻になったり痰がでたり、いろんなことが起きてきます。間違った戦いというのは大変なことなんです。

アレルギー症状を予防するには

アレルギーは遺伝子と生活環境で出てきます。これは、お父さんやお母さんに鼻炎やぜんそくがあったりすると、みんなもこの遺伝子をもらってきます。でも、遺伝子だけでは病気は出ません。遺伝子と生活環境が合体すると発症します。遺伝体質というのは、生まれつきなので仕方がありません。木や草の花粉は風に飛ばされて飛んでくるからどうしようもありません。スギの花粉は風に飛ばされて地球を一周してきます。

ただし、ダニやペットの毛、こういうのは自分たちで減らすことができます。子どものアレルギーの原因のほとんどはダニだから、自分たちで努力すれば減らすことができます。家の掃除は掃除機でこまめに行い、寝具にも掃除機をかけてください。ふとん畳・ジュータン・ソファーはダニの心地好い住みかです。ハウスダストは、夜のアレルギーで、年中症状が出ます。

活動を終えて

・僕は、今までアレルギーのことは全く知りませんでした。でも、アレルギーのことがわかると、とても恐ろしいことだとわかりました。顕微鏡でいろいろな花粉を見たり、ダニやほこりや変な虫も見れてよかったです。　六―一　市川　兼伍

・保健委員会でもっとアレルギーのことについて調べて、今度は四年生や五年生にも集会をやって教えてあげたいです。その時はまた、協力してください。　六―二　杉浦　肇

・石田先生にはアレルギーのことや、草のことや、ダニのことを教えていただきました。水曜日の委員会で楽しみなのは、先生のお話です。仕事が忙しいのにみんなのために来てくれてありがとうございました。　六―三　田中　望弥

・石田先生は病院にいる時と、学校にいる時は違うけれどどちらも好きです。わからないところを難しい本で調べていると、つまらなくなるけれど先生はいつもアドバイスをしてくれました。おかげですてきなビデオができました。六―四　宮　葉月

・私は一年中アレルギーだから、ハウスダストのアレルギーだと思います。部屋の掃除や、ふとんはしなど、ひどくならないうちにやりたいです。アレルギーのことをいろいろ知ったら、耳鼻科の先生になりたくなりました。　六―四　渡辺　裕記

石田先生ありがとうございました

五、寄稿

雨ニモマケズ」―夏祭りを終えて

上地四区　川村　真理子

「大丈夫。夏祭りの日は晴れてくれる。今までずっと、そうだった・・・・。」

黒い雨雲に被われ始めた空を見上げ、思わず祈るような気持ちでつぶやきました。例年、台風の近づくシーズンとなるころですが、「夏祭りの日」は良い天候に恵まれていました。ところが、今年は願いむなしく、どしゃ降りの夕立、おまけに大雨洪水注意報まで。それも、祭りの準備はすべて整い、ＯＫ、あとは始めるばかり、という時に。

五時頃から集まり始めていた子供たちは、とりあえず体育館にて雨やどり。機転をきかせてくれた先生方が、オープニングに予定していたブラスバンド演奏をして下さり、拍手喝采となりました。体育館の中は、あふれる熱気で、雨が止むのを、祭りの始まりを、今か今か待っていてくれる子供たち、お父さんお母さんでいっぱいになっていきました。

その頃、実行委員会の諸団体代表は、校長室に集まり、善後策を検討していました。その結果、北部地域の天気回復の情報を確認し、約一時間遅れで、開会宣言となったのです。

しかし、小雨になったかと思うと、またどしゃ降りがきたりで、運動場や体育館の中は上を下へのてんやわんやでしたが、子供たちのパワーは全開。この日のために両親からいただいたおこずかいをにぎりしめ、

「ゲームはどこでやっているの。」

「ハンバーガーと、とうもろこしと、クレープを買うの。それから・・・。」

大人たちの心配をよそに、ぬかるみなんぞ、何のその、目的を目指して駆け回っていました。大人も負けていられません。

雨もまた良し。これも思い出。

夏祭りは、昨年度から総代会を初めとする、学区諸団体による実行委員会形式で行われるようになりました。文字通り、

「上地学区親子夏祭り」となったわけです。五月下旬から企画会議が始まり、内容の検討を重ねてきました。それぞれの方々が、仕事で忙しいにもかかわらず、ふるさと上地、そして子供たちのために惜しみなく労力を費やして下さいました。また、影となり、日向となって、祭りを盛り上げて下さった方々も大勢おられます。

上地の町は全国区と言われますが、北に、南に、ふるさとを持つお父さん、お母さんたちが子供と共に、今、新たに上地の町にふるさとを見いだそうとしておられます。

手作りの祭りの味を子供たちに伝え、その子供たちが、十年後、二十年後にまた、子供の手を引いて祭りに参加されるであろう姿を想像してやみません。

雨にも負けず、仕掛花火が、見事に夜の闇に輝いた時、そんな祭りの成功を確かに感じることができました。

マルサンみそを見学して

～ＰＴＡ社会見学を終えて～

参加者代表　味岡　晴美

上地十区にお住居の「マルサンアイ」元専務の稲吉章さんのご紹介により、ＰＴＡ社会見学に出かけました。十一月十一日（金）に岡崎市仁木町のマルサンアイ株式会社に総勢五十八名のＰＴＡ会員が工場見学させて頂きました。

上地自動車学校のバスとＰＴＡ役員降旗さん・上地小学校松原教頭先生運転の乗用車にそれぞれ分乗して出発しました。約三十分の後、全員無事に工場に到着しました。門の入口で守衛さんへの見学届けを済ませ、工場内の敷地に立つと、みその香りがつんと鼻をつきます。

「やっぱり匂うわね。」

「なんの匂いかね。」

「豆乳かしら。」

早速、参加者の会話がはずんでいます。

最初に、室内会場でみそのできるまでを内容とした映画を鑑賞しました。日本の伝統的な食文化を代表する「みそ」の生い立ちが分かりやすく映像化されていて、つい引き込まれてしまいました。予備知識を得たところで、早速工場内の見学に移りました。以下は、見学後「生活を語る会」の会員を中心に有志が話し合った記録です。

Nさん「みそ工場なのに、いやな臭いもないし、とっても工場がきれいだったわね」

Sさん「働いている人も、思っていたより少ないし、設備が近代的で埃もなかったわ」

Kさん「そうね、ステンレスのみそだるには驚いたわ：：：」

Tさん「おみそばかりでなく、いろいろな製品を作っているのね」

Kさん「豆乳とかスープとか、健康をよく考えた製品が多いわね」

Nさん「だし入りみそなど、現代のニーズにマッチしているわね」

Aさん「赤だしみそは、色は濃いけれど、塩分は白みそよりもずっと少ないんだって：：：」

Sさん「大豆はほとんどが外国産だけれど、その中でもいい大豆を選んで使用していると聞いて、安心したわ」

先　生「みそ汁は、私の場合はおふくろの味でした。豆

工場の外で説明を聞く参加者の皆さん

みそをすり鉢ですり、かつお節を削ってだしを作る。そういうみそ汁の味を忘れられません」

Kさん「そう。おふくろの味はこれからも、子どもたちに伝えていかなくっちゃあいけないわ」

Aさん「いいお話を聞かせて頂いた上、お土産にたくさんの製品を頂いて、とっても楽しい半日だったわね」

Kさん「今日は、お疲れのところ皆様ありがとうございました」

座談会出席者

ー保護者ー

川村真理子　倉橋　薫　龍田　陽子

佐々木禎子　味岡　晴美　永谷　美雪

ー職　員ー

松原　晄三

平成六年十一月十四日　校長室

ホールの中で熱心に説明を聞く皆さん

あとがき

『ふるさと上地その8』の発刊を迎えることができました。学区、学校の接点としての役割を持つ学校だより「上地」（月刊）を項目ごとにまとめました。

取材にあたっては、学区の方々はじめ多くの方々から親切に教えて頂きました。厚くお礼申し上げます。

私たちは、この冊子を作るにあたり、次のことを念頭に置いて進めてきました。

一、手作りであること

二、足で調べたり書いたりしたものであること

三、できるかぎり子どもにも参加してもらうこと

力不足のため、あるいは調査不足のため、記載事項に間違いもあろうかと思います。その節は遠慮なく指摘して頂き、ご指導をお願いしたいと思います。

本年度は、六月に「学級づくりを基盤とした学習指導」と題し、実践報告会を持ちました。先輩が作り上げてきた研究を継続発展させるため今後とも努力を続けていきたいと思います。本書が学区・学校の更なる発展への一助となることを願っています

岡崎市立上地小学校教務主任　菅沼　剛

研究同人

深津　武司	松原　晄三	菅沼　剛	浅井　考司	竹内　孝之
松崎　富香	熊谷　洋子	鈴木　純子	遠山　洋子	鈴木　尚子
坂爪ひとみ	松井　敬子	杉田　雅子	岡本きみゑ	高橋由美子
鈴木千恵子	木村　和子	高田加代子	冨田　典子	清水由美子
森下　初子	多田　一孝	杉浦　美香	鶴田　秀幸	杉本　峰
松永　千鶴	竹平　真仁	酒井　啓子	岩井　政美	松坂　禎文
小田　英宣	深津　伸夫	西田　貴子	寺澤祐喜江	太田　智恵
古池　初江	前原　照世	加納千夏子	佐野真由美	

ふるさと上地　8

発行日　平成7年3月18日

発行者　岡崎市立上地小学校

校長　深津　武司

岡崎市上地3丁目31番地

電話（0564）53－0501

印刷所　大日印刷株式会社